



滋賀県立大学

地域連携  
ガイドブック  
2021

## 滋賀県立大学 学長挨拶

日頃より、滋賀県立大学の教育研究や地域活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。この度、本学教員の研究内容、産学や地域連携活動を分かり易く紹介する「滋賀県立大学 地域連携ガイドブック」を改訂しましたので、お送りします。本学との交流についての一助となれば幸甚です。

さて、2020年の年明けから顕在化した新型コロナウイルス感染症は、世界的に猛威を振るい、我々の生活をはじめ社会活動など、あらゆるところに大きな影響を及ぼしています。滋賀県立大学の教育研究や地域連携活動においても、制限されることも多く、柔軟に対応せざるを得ません。

このようなコロナ禍の状況においては、これまでのように、多くの人が一室に会することは困難です。そのため、小さな単位の活動を充実させ、それらを情報通信技術（ICT）を活用しながら相互に繋いでいくなど、新たな思考や行動の変容が求められています。

また、本学では、2018年6月に「滋賀県立大学 SDGs\*宣言」を行い、持続可能で誰ひとり取り残さない社会の実現に向けて、取り組んでいます。持続可能な開発目標は2030年のゴールを目指しており、これからの10年が大変重要な期間となります。私たちは、今後も地域の皆様とともに、教育研究活動や地域貢献を通して、SDGsの達成に向けて行動していきたいと考えています。

そのためにも本ガイドブックが、本学と皆さまとの架け橋となり、具体的なアクションに繋がることを願っています。

滋賀県立大学学長 廣川 能嗣

\* SDGsとは2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」。

# 滋賀県立大学の問合せ窓口・情報検索

## マッチングのための相談窓口

滋賀県立大学では、次の3つのセンターを窓口として地域連携や産学連携を展開しています。

### 地域共生センター

地域課題の解決や地域共生に関する教育・研究および地域社会で活躍する人材の育成などを通じて、地域連携に取り組んでいます。

**地域共生センターでは、次のような御相談をお受けします。**

- 地域づくり・地域活動に関すること
- 地域課題の解決や地域づくりに向けた受託研究に関すること

関連 URL : 地域共生センターウェブサイト <http://ccdp.usp.ac.jp/>

### 産学連携センター

大学の知的・物的資源を活用することにより、企業の先端的技術開発および新規事業創出に貢献することを目指して産学連携に取り組んでいます。

**産学連携センターでは、次のような御相談をお受けします。**

- 科学技術等の相談に関すること
- 大学との共同研究・受託研究に関すること
- 大学との共同研究に向けた研究実験室等の貸出に関すること
- 計測分析機器等の貸出に関すること

関連 URL : 産学連携センターウェブサイト <https://www.usp.ac.jp/chii kisangaku/center/>

### 地域ひと・モノ・未来情報研究センター

ICT を活用した企業や地域の課題解決および実用的な ICT 手法を用いて地域で活躍する人材の育成に取り組んでいます。

**地域ひと・モノ・未来情報研究センターでは、次のような御相談をお受けします。**

- ICT 技術等の相談に関すること
- ICT を活用した企業や地域の課題解決に関すること
- ICT 手法による種々の課題解決能力の習得に関すること

関連 URL : 地域ひと・モノ・未来情報研究センターウェブサイト <http://www.ict.usp.ac.jp/>

## 研究者情報の検索

研究者総覧「知のリソース」 <http://db.spins.usp.ac.jp/>

## 問合せ先

滋賀県立大学 地域共生センター  
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500  
TEL : 0749-28-9851  
FAX : 0749-28-0220  
Mail : [chiiki@office.usp.ac.jp](mailto:chiiki@office.usp.ac.jp)

# 研究者一覧 目次

職名	氏名	専門分野 キーワード	掲載ページ
----	----	---------------	-------

## 理事長・副学長／理事・副学長

理事長・学長	廣川 能嗣	機能性高分子材料, 高分子ゲル科学 -----	13
理事・副学長	倉茂 好匡	高分子, ゲル, プラスチック, ゴム, 繊維 地形学, 陸水物理学, 大学授業改善活動, スペイン語 -----	13
理事・副学長	山根 浩二	地形学の基本, 河川とその周辺の地形, 授業の基本, カリキュラム点検法, 初級中級のスペイン語 エンジンシステム工学 -----	14
		ディーゼルエンジン, バイオ燃料, 油脂, 燃焼, エネルギー	

## 環境科学部

### 環境科学部 環境生態学科

教授	西田 隆義	生態学 -----	15
教授	小泉 尚嗣	外来種, 希少種, 保全生態学, 動物, 植物 地震地下水学, 滋賀県の地震災害 -----	15
教授	伴 修平	地下水, 地震, 地殻変動, 活断層, 地震予測 水圏生態学 -----	16
教授	丸尾 雅啓	プランクトン, 琵琶湖, 水草利活用, メタン発酵, 微細藻培養 水圏化学, 分析化学 -----	16
教授	浦部 美佐子	琵琶湖, リン, 化学形態, 微量分析, 環境動態 陸水生物学, 寄生虫学 -----	16
准教授	野間 直彦	寄生虫, 分類, 底生動物, 生物多様性, 陸水 生態学 -----	17
准教授	後藤 直成	木の実, 里山, 鳥獣害, トチノキ, 外来水草 陸水学 -----	17
准教授	吉山 浩平	琵琶湖, 水質, 物質循環, 植物プランクトン 理論生態学 -----	17
准教授	堂満 華子	数理モデル, 統計解析, 生物群集, 空間パターン形成 環境変遷学 -----	18
准教授	細井 祥子	第四紀, 古環境復元, 堆積物, 微化石, 浮遊性有孔虫 分子微生物, 環境微生物, 微生物生態学 -----	18
講師	籠谷 泰行	有毒・有害プランクトン, 微生物制御, 遺伝子発現解析, 微生物群集構造解析 森林生態学 -----	18
講師	肥田 嘉文	森林, 生態系, 環境形成機能, 物質循環, 琵琶湖集水域 環境科学, 影響評価科学 -----	19
講師	尾坂 兼一	安全観, 天然毒性, 化学物質, リスク評価, 体の柔らかさ 森林水文学 -----	19
講師	工藤 慎治	水質, 同位体比, 森林, 集水域 大気科学 -----	19
		大気汚染物質, 微小粒子状物質 (PM2.5), 化学分析, 発生源解析	

### 環境科学部 環境政策・計画学科

教授	金谷 健	廃棄物管理 -----	20
教授	井手 慎司	廃棄物政策, 廃棄物処理計画, 廃棄物処理施設, 自治体, 施策の有効性と限界 水環境管理 -----	20
教授	上河原 献二	琵琶湖, 水質, 生態系, 景観, 住民参加 環境法・環境政策 -----	21
教授	高橋 卓也	自然環境保全制度, 外来水生植物管理制度, 地球環境条約制度 森林政策・計画, 環境経営 -----	21
教授	香川 雄一	森林認証, 水源林, 環境支払い, 環境マネジメントシステム, 環境マーケティング 環境地理学, 都市社会地理学 -----	21
		公害反対運動, 地域住民, 地域環境問題, 工業都市, 沿岸域	

准教授	瀧 健太郎	流域政策・計画 ----- 22 水工学, 自然災害科学・防災学, 土木環境システム
准教授	林 幸司	環境経済学 ----- 22 貿易と環境, 地球温暖化, 気候変動
准教授	村上 一真	行動経済学, 環境経済学, 開発経済学 ----- 22 環境配慮行動, サプライチェーンマネジメント, 意思決定プロセス, Nudge, EBPM
准教授	和田 有朗	環境計画, 環境政策 ----- 23 環境意識, 環境配慮行動, 小型家電リサイクル, エネルギー教育
講師	平岡 俊一	環境ガバナンス, 市民参加・協働, 社会学 ----- 23 持続可能な地域づくり, 市民参加・協働, NPO, 中間支援組織, 地域エネルギー政策
講師	平山 奈央子	湖沼政策学 ----- 23 政策過程論, 参加型流域評価, 連携・協働
講師	白木 裕斗	エネルギーシステム学 ----- 24 エネルギーシステム, シミュレーション分析, 電力システムモデル, 電力需要, 要因分解

## 環境科学部 環境建築デザイン学科

教授	陶器 浩一	建築構造 ----- 25 構造計画, 構法, 竹構造, ものづくり, 建築設計
教授	村上 修一	ランドスケープデザイン ----- 25 景観, 風景, 造園, 土地の履歴, グリーンインフラ
教授	高田 豊文	建築構造学 ----- 26 応用力学, 構造最適化, 構造形態創生, 木質構造, 耐震診断
教授	白井 宏昌	建築史, 建築設計理論 ----- 26 建築デザイン, 都市デザイン, 空間ストック活用, 創造的歴史学
教授	芦澤 竜一	建築デザイン ----- 26 建築設計, 環境建築, 建築デザイン, サステイナブルデザイン, パッシブデザイン
准教授	金子 尚志	建築環境デザイン ----- 27 環境共生, 地域環境, 自然エネルギー, パッシブデザイン, サステイナブルデザイン, ZEB, ZEH
准教授	ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン	建築史・意匠, 都市計画・建築計画 ----- 27 建築・歴史, スペイン植民地都市, 都市再生, 遺産修復保存
准教授	轟 慎一	都市・地域計画, 都市政策, 地域環境デザイン, 集落論, 生活空間論 ----- 27 生活空間論, 集落論, 景観論, 都市政策, 都市・地域計画
准教授	山崎 泰寛	建築メディア論 ----- 28 建築・デザインの展覧会, キュレーター, 近代建築史, デザイン史
准教授	川井 操	都市・建築計画 ----- 28 建築計画, アーキテクトビルダー, アジア都市史, 地域計画, 建築設計
講師	迫田 正美	建築空間論, 環境行動論, 作品論 ----- 28 デザイン史, 人の行動と環境, 芸術と建築, 科学・思想と建築, 物語に表現された空間
講師	高屋 麻里子	日本建築史・都市史 ----- 29 土蔵, 城郭, 武家屋敷, 中世近世都市, GIS
講師	鄭 新源	建築環境工学, 環境性能評価, 環境心理 ----- 29 建築環境工学, 環境性能評価, 建築環境心理, 光環境
講師	永井 拓生	建築構造 ----- 29 構造設計, 素材, 工法, コンピューテーション, デジタルデザイン

## 環境科学部 生物資源管理学科

教授	大久保 卓也	環境工学, 生態工学, 水質科学 ----- 30 水質, 琵琶湖, 河川, 水田, 在来魚
教授	須戸 幹	環境化学 ----- 30 農薬, 水質, 微量化学物質, 環境動態, 流出メカニズム
教授	杉浦 省三	水産学, 水産養殖, 魚類栄養学 ----- 31 水産, 魚類, 養殖, 養魚飼料, リン
教授	泉 泰弘	作物学, 栽培学 ----- 31 イネ, 雑穀, ダイズ, 間混作, 湿害対策
教授	原田 英美子	植物科学 ----- 31 重金属集積植物, 水生植物, 石灰岩土壌, 金属分析, DNA バーコーディング

教授	入江 俊一	応用微生物-----	32
		遺伝子, 酵素, 木質バイオマス, 菌類, きのこと	
准教授	岩間 憲治	土壌物理学, 農業農村工学-----	32
		土壌構造, 土壌化学, 土壌環境修復, ファイトレメディエーション, GIS	
准教授	上町 達也	園芸学-----	32
		園芸, 花, 遺伝資源, 形態形成, 系統分類	
准教授	高倉 耕一	生態学-----	33
		野生生物, 在来種, 外来種, 害虫, 統計解析	
准教授	清水 顕史	植物遺伝育種学-----	33
		栄養ストレス耐性, バイオインフォマティクス, QTL 解析, 全ゲノム関連解析, 遺伝子探索	
准教授	増田 清敬	環境経済学, 農業経済学-----	33
		環境保全型農業, 環境効率, 地球温暖化	
准教授	皆川 明子	水田生態工学, 農業水利学-----	34
		水田, 農業水路, 生態系配慮, 維持管理	
講師	飯村 康夫	土壌化学-----	34
		土壌, 有機物, 物質循環, 地球温暖化, バイオ炭	
講師	畑 直樹	蔬菜園芸学, 植物工場-----	34
		養液栽培, 低環境負荷, 機能性成分, 地域伝統野菜, 連続光	
講師	泉津 弘佑	微生物分子遺伝学, 植物病理学, 農薬科学-----	35
		植物病原菌, 菌根共生菌, 殺菌剤, 分子遺伝学	
講師	中川 敏法	家畜生産学, 家畜飼養学, 飼料開発・分析-----	35
		家畜家禽, 飼料成分, 未利用資源, 機能性, 動物行動	
講師	住田 卓也	植物病理学-----	35
		植物病原菌, 拮抗微生物, 微生物の防除, 病原性発現機構, 病原性関連遺伝子	
講師	加藤 恵里	林政学, 農業経済学-----	36
		鳥獣被害対策, 農山村, 地域振興, 地域資源管理	

**工学部**  
**工学部 材料科学科**

教授	バラチャンドラン ジャヤデワン	材料科学-----	37
		機能性ナノ材料, 金属ナノ粒子, 磁性ナノ粒子, 導電性ナノ粒子・ナノワイヤ, 触媒ナノ粒子	
教授	松岡 純	無機材料科学-----	37
		ガラス, 高温物性, 破壊, 電子部品, セラミックス	
教授	徳満 勝久	高分子材料, プラスチック成形加工, 複合材料-----	38
		高分子物性, レオロジー, 成形加工, 劣化と耐久性, 高分子ブレンド	
教授	奥 健夫	エネルギー材料科学-----	38
		光, エネルギー, ペロブスカイト, 太陽電池, 原子配列	
教授	金岡 鐘局	高分子合成, 機能性高分子-----	38
		高分子, 繊維, 機能性材料, 分岐ポリマー, 反応制御	
教授	北村 千寿	有機合成化学, 構造有機化学-----	39
		有機半導体, 機能性色素, 多環式芳香族炭化水素	
准教授	宮村 弘	金属材料学-----	39
		水素吸蔵合金, 電池材料, 結晶構造解析, 窒化物, 非平衡相	
准教授	竹下 宏樹	高分子構造, 高分子物性-----	39
		プラスチック, 高分子ブレンド, 結晶性高分子, 液晶, ゲル	
准教授	秋山 毅	機能物性化学, エネルギー関連化学-----	40
		プラスモン, 金・銀ナノ粒子, フラーレン, 有機薄膜太陽電池, 光触媒	
准教授	谷本 智史	高分子界面科学-----	40
		微粒子, 表面界面, 天然高分子, マイクロカプセル, 金属イオン捕集	
准教授	加藤 真一郎	構造有機化学-----	40
		有機合成, 芳香族化合物, 複素芳香族化合物, 超分子材料, 蛍光材料	
准教授	山田 明寛	ガラスおよび融液の科学, マグマの科学, 惑星内部物質科学, 高圧物質科学-----	41
		ガラス・融液の構造, 高温高圧, X線・中性子線分析	
講師	鈴木 厚志	エネルギー材料科学-----	41
		太陽電池, エネルギー変換材料, 第一原理計算, 量子コンピューター	

講師	竹原 宗範	応用微生物学, 生物有機化学 ----- 41 発酵, ペプチド, 酵素, 脂質, 生体機能材料
講師	伊田 翔平	高分子精密合成, ゲル化学 ----- 42 高分子ゲル, 高分子合成, 精密ラジカル重合, 機能性高分子, 刺激応答性材料
講師	鈴木 一正	無機化学 ----- 42 ゾルゲル, 液相プロセス, 有機-無機ハイブリッド, 金属酸化物, カーボンドット

## 工学部 機械システム工学科

教授	安田 寿彦	メカトロニクス ----- 43 福祉ロボット, 早期移動体験用電動移動支援機器, 自立支援型移乗介助機器・システム
教授	南川 久人	流体工学, 混相流工学 ----- 43 ファインバブル, マイクロバブル, 気液二相流, 水質浄化, 水耕栽培
教授	奥村 進	ライフサイクル工学 ----- 44 ライフサイクル設計, 環境配慮型製品, メンテナンス, 設計・製造パラメータのロバスト化
教授	門脇 光輝	数学 ----- 44 偏微分方程式論, スペクトル・散乱理論
教授	呉 志強	振動工学, 計算力学 ----- 44 CAE, 振動抑制, 共振, 最適設計, 軽量化設計
教授	田邊 裕貴	材料強度学 ----- 45 破壊, 疲労, 摩耗, 表面処理, 非破壊検査
准教授	山野 光裕	ロボット工学 ----- 45 ソフトロボット, ロボット制御, ロボットアーム, ロボットハンド, 人間型ロボット, 脚ロボット, ロボットを活用した教育, メカトロニクス
准教授	橋本 宣慶	生産加工学 ----- 45 教育訓練システム, 技能伝承, バーチャルリアリティ, ヒューマンインタフェース
准教授	河崎 澄	熱工学, 内燃機関 ----- 46 ディーゼルエンジン, ガスエンジン, 燃料, 燃焼
准教授	安田 孝宏	流体工学 ----- 46 物体周りの流れ, 流体抵抗低減, 流体騒音低減, 風洞実験, 数値流体解析
准教授	大浦 靖典	機械力学 ----- 46 固有振動, 自励振動, 連成振動, 騒音
准教授	和泉 遊以	材料強度学, 非破壊検査工学 ----- 47 破壊, 疲労, 非破壊検査, 赤外線サーモグラフィ法, 維持管理
講師	西岡 靖貴	ソフトメカニズム, 知能機械学 ----- 47 ソフトアクチュエータ, 空気圧システム, メカトロニクス, 福祉工学, 生体計測
講師	田中 昂	振動工学 ----- 47 振動, 超音波, 検査, モニタリング

## 工学部 電子システム工学科

教授	乾 義尚	電力工学 ----- 48 電力変換・制御, 電力貯蔵, エネルギーシステム, 自然エネルギー
教授	作田 健	計測工学 ----- 48 磁気計測, 非破壊, 微小信号, 信号処理
教授	柳澤 淳一	半導体プロセス工学, イオンビーム工学 ----- 49 半導体, デバイス, 超微細加工, ナノテクノロジー, イオンビームプロセス
教授	岸根 桂路	集積システム・通信方式 ----- 49 集回路, 通信システム機器・部品, センサー
教授	酒井 道	メタマテリアル科学, ネットワーク科学, プラズマ理工学 ----- 49 メタマテリアル, 電磁波, 複雑ネットワーク, プラズマ, スマート化
教授	砂山 渡	人工知能, データサイエンス ----- 50 意思決定支援, 知識創発, データマイニング, テキストマイニング, 情報可視化
准教授	宮城 茂幸	デジタル信号処理 ----- 50 画像信号処理, 深度画像, 加速度センサー, 3D 復元, 行動解析
准教授	坂本 眞一	超音波エレクトロニクス, 熱音響工学 ----- 50 音響, エネルギー, 超音波, 熱音響
准教授	一宮 正義	光物性 ----- 51 非線形光学, ナノ結晶作製, 物性評価

准教授	土谷 亮	集積回路, 電子デバイス -----	51
		集積回路, 通信, センサー	
講師	榎本 洸一郎	画像工学, システム情報科学-----	51
		画像工学, 画像計測, システム工学, 農林水産業, 実応用	
講師	平山 智士	プラズマ電磁流体力学, 電気機器学-----	52
		電力遮断, 放電, プラズマ, 数値シミュレーション	
講師	井上 敏之	集積回路設計, 無線システム-----	52
		集積回路, 無線システム, センサネットワーク	

## 工学部 ガラス工学研究センター

講師	出島 一仁	熱工学 -----	53
		伝熱工学, 熱流体工学, 計測技術, MEMS	

## 人間文化学部

### 人間文化学部 地域文化学科

教授	市川 秀之	日本民俗学・博物館学 -----	54
		水利用, 当屋制, 歴史民俗学	
教授	亀井 若菜	日本美術史-----	54
		日本美術史, 絵巻, 近江を描く絵, ジェンダー, 女性像	
教授	京樂 真帆子	日本史, ジェンダー史 -----	55
		平安京, 都市社会史, 女性史	
教授	東 幸代	日本近世史-----	55
		江戸時代, 古文書, 琵琶湖舟運, 漁業史, 歴史地震	
教授	塚本 礼仁	人文地理学-----	55
		産地, 特産物, フードシステム, 地場産業	
教授	石川 慎治	建築史, 保存修景計画 -----	56
		伝統的建造物の保存, 町なみ保存, 文化的景観の保全, 文化遺産教育	
准教授	萩原 和	地域計画学-----	56
		都市農村における景観まちづくり, 地域資源管理	
准教授	横田 祥子	社会人類学, 地域研究 -----	56
		東アジアにおける女性の移動, 結婚, 家族, 再生産労働, 華人	
准教授	櫻井 悟史	社会学 -----	57
		歴史社会学, 文化社会学, 社会問題, 娯楽, 観光	
准教授	金 宇大	考古学 -----	57
		古墳時代, 朝鮮三国時代, 副葬品, 渡来人, 対外交流	
講師	木村 可奈子	東アジア国際関係史-----	57
		東アジア, 歴史, 国際関係	
講師	高木 純一	日本中世史-----	58
		惣村, 荘園	

### 人間文化学部 生活デザイン学科

教授	宮本 雅子	居住環境 -----	59
		照明, 色彩, 環境バリアフリー	
教授	印南 比呂志	地域デザイン, 職人研究, ソーシャルデザイン-----	59
		地域, 職人, まちづくり, 絶滅危惧, 限界集落, 道具, デザイン, 工芸, イタリア, 韓国	
教授	森下 あおい	服飾デザイン, 被服人間工学-----	60
		服飾, デザイン, テキスタイル, 体形	
教授	藤木 庸介	建築設計, 建築計画, 都市計画 -----	60
		少数民族, 文化遺産観光, リビングハリテージ	
准教授	横田 尚美	服飾文化, 西洋服装史 -----	60
		服飾文化, ファッション, 西洋服装史, 衣生活, ファッション情報	
准教授	山田 歩	行動経済学, 社会心理学, マーケティング -----	61
		ナッジ, 広告コミュニケーション, 生活者調査	
講師	佐々木 一泰	空間デザイン -----	61
		空間デザイン, 建築設計, 店舗設計, デザインブランディング	

講師	南 政宏	プロダクトデザイン, ブランディングデザイン -----	61
講師	徐 慧	プロダクトデザイン, ブランディングデザイン, グラフィックデザイン, パッケージデザイン, デザインビジネス グラフィックデザイン ----- グラフィックデザイン、視覚伝達デザイン、アートディレクション	62

## 人間文化学部 生活栄養学科

教授	矢野 仁康	病態栄養学 -----	63
教授	中井 直也	癌, 癌幹細胞, ポリフェノール 運動栄養学, 筋生理・生化学 -----	63
教授	辰巳 佐和子	筋肉, タンパク質合成, 筋サテライト細胞, アミノ酸 臨床栄養学, 老化の栄養学, 時間栄養学, 慢性腎臓病, 骨粗鬆症におけるミネラル代謝学 -----	64
教授	福渡 努	リン代謝, 健康寿命, 慢性腎臓病, 骨粗鬆症, 時間栄養 基礎栄養学 -----	64
准教授	奥村 万寿美	アミノ酸, ビタミン, 栄養素代謝, 栄養評価 臨床栄養学, 栄養教育, 給食経営管理 -----	64
准教授	佐野 光枝	栄養食事指導, 食育, フードマネージメント, 行動経済学 食品学, 分子栄養学 -----	65
准教授	遠藤 弘史	DOHaD (生活習慣病胎児期起源説), 妊婦と胎児の栄養, アミノ酸 分子細胞生物学・生化学 -----	65
准教授	今井 絵理	食品成分, 癌, 生活習慣病 公衆栄養学, 栄養疫学 -----	65
准教授	東田 一彦	公衆栄養学, 栄養疫学, 食事パターン, 食生活 運動生理・生化学, スポーツ栄養学 -----	66
講師	桑原 頌治	骨格筋, 栄養, 運動, 糖代謝, 脂質代謝 臨床栄養, 腎臓, 糖尿病 -----	66
講師	畑山 翔	腎臓における物質の輸送、慢性腎臓病、糖尿病性腎臓病、急性腎障害、 たんぱく質と腎障害 基礎栄養学 -----	66
講師	田中 大也	アミノ酸, ビタミン, 脳機能, 栄養状態, 生体有効性 病態栄養学、分子細胞生物学 ----- 食品成分、ポリフェノール、癌、分子細胞生物学	67

## 人間文化学部 人間関係学科

教授	高梨 克也	コミュニケーション科学, 身体動作学 -----	68
教授	松嶋 秀明	会話分析, 動作分析, フィールドワーク, 多職種連携, コミュニケーション実践職 臨床心理学 -----	68
教授	上野 有理	非行の立ちなおり, スクールカウンセラー, 放課後児童クラブ 比較認知発達科学 -----	69
教授	丸山 真央	乳幼児, 発達, 進化, 保育, 食行動 地域・都市社会学, 村落社会学, 政治社会学 -----	69
准教授	大野 光明	地域社会, 地方自治, 都市, 農山漁村, 社会調査 歴史社会学, 社会運動史 -----	69
准教授	木村 裕	基地・軍隊, 社会運動・市民運動, 環境, 暴力 教育方法学, 教育学 -----	70
准教授	杉浦 由香里	持続可能な開発のための教育 (ESD), グローバル教育, カリキュラム, 教育評価, 授業研究 教育学, 教育史 -----	70
准教授	原 未来	教育制度, 地方教育行政, 地域教育史, 実業補習学校制度 教育学, 青年期教育 -----	70
講師	中村 好孝	ひきこもり, 若年無業, 若者支援, ユースワーク, 居場所 社会学, 福祉社会学 -----	71
講師	後藤 崇志	社会的ひきこもり, 障がい者福祉, アサーティブコミュニケーション 社会心理学, 教育心理学, 認知心理学 ----- モチベーション, セルフコントロール, 社会的影響, 心理測定, 調査設計	71

## 人間文化学部 国際コミュニケーション学科

教授	棚瀬 慈郎	文化人類学, チベット地域研究 -----	72
		文化人類学, チベット	
教授	呉 凌非	言語学, 言語処理 -----	72
		深層格, 表層格, 意味構造, 動詞分類, モダリティ表現	
教授	ジョン リピー	アメリカ文学, 創作 (詩), 外国語習得 -----	73
		アメリカの詩, 詩の創作, 自然, 里山, 日本の詩・翻訳	
教授	ボルジギン ブレンサイン	近現代史, 現代中国研究, モンゴル満洲地域研究 -----	73
		近現代史, モンゴル・満洲地域研究, 中国の少数民族問題, 日中関係	
准教授	山本 薫	英文学 -----	73
		英語圏文学, 世界文学, ヨーロッパ現代思想	
准教授	吉村 淳一	ドイツ語学 -----	74
		ドイツ語, ドイツ語史, ドイツ文化, 言語学, メディア学	
准教授	河 かおる	朝鮮近代史 -----	74
		朝鮮・韓国, 植民地, 在日朝鮮人, 地域史, 多文化共生	
准教授	マーティン ホークス	応用言語学 -----	74
		タスクを重視した言語教育(TBLT), English Medium Instruction (EMI), 言語教授法, 第二言語習得, 英語の歴史	
准教授	橋本 周子	文化史, 思想史 -----	75
		フランス, 近代, 美食, 社交	
講師	中谷 博美	認知言語学 -----	75
		認知文法理論, 語用論, 英語教育	

## 人間看護学部

### 人間看護学部 人間看護学科

教授	甘佐 京子	精神看護学 -----	76
		心の病気(精神疾患), 心の健康(メンタルヘルス)教育, 笑い与健康	
教授	伊丹 君和	基礎看護技術, 教育工学 -----	76
		生活と健康, リラクゼーション, 防災, 腰痛予防, 学習システム	
教授	糸島 陽子	成人看護学 -----	77
		エンドオブライフケア, エンドオブライフ教育, 医療倫理	
教授	岩谷 久美子	母性看護学, 助産学 -----	77
		母性看護学教育, 助産学教育, 安全管理, 分娩介助, 子育て支援	
教授	河野 益美	地域看護学, 在宅看護学 -----	77
		在宅看護学教育, 家族支援, 在宅看取り, 介護保険制度, 訪問看護師のストレスマネジメント	
教授	古株 ひろみ	小児看護学 -----	78
		プレバレーション, 学校看護師, 家族看護	
教授	越山 雅文	婦人科腫瘍学, 産科異常学 -----	78
		卵巣癌, 子宮体癌, 子宮頸癌, 足浮腫, 医療機器	
教授	本田 可奈子	基礎看護学 -----	78
		組織マネージメント 専門職教育 救急看護 クリティカルケア看護	
教授	安原 治	解剖学, 神経科学, 神経内科学, 神経病理学 -----	79
		神経疾患, 認知症, 脳のしくみ	
教授	横井 和美	臨床看護学, 慢性期看護学 -----	79
		慢性の病い, セルフマネージメント支援, ケアとしての音楽療法	
准教授	荒川 千登世	成人看護学 -----	79
		臨床看護学, 急性期看護, 回復期看護, 看護教育, リンパ浮腫ケア	
准教授	板谷 裕美	助産学, 母性看護学 -----	80
		母乳育児, 産後ケア, ウィメンズヘルス, 月経カップ, 助産教育	
准教授	岡本 紀子	老年看護学 -----	80
		高齢者の肺炎予防, 高齢者の感染予防	
准教授	川端 智子	小児看護学 -----	80
		未成年の喫煙防止教育, タバコに関する健康教育	
准教授	小林 孝子	公衆衛生看護 -----	81
		母子保健, 育児支援, 保健師, 発達障害	
准教授	馬場 文	公衆衛生看護学 -----	81
		児童虐待防止, 子どもの貧困, 子ども家庭支援	

准教授	古川 洋子	母性看護学, 助産学 -----	81
准教授	牧野 耕次	産み育て支援, 思春期の健康支援, いのちの教育, 女性の健康 (ウィメンズヘルス) 支援 精神看護学 -----	82
准教授	森本 安紀	患者看護師関係, involvement, かかわり, 巻き込まれ, 境界 在宅看護学, 民俗学 -----	82
准教授	米田 照美	在宅看護, 訪問看護, 在宅看護教育, 民俗学 基礎看護学 -----	82
講師	生田 宴里	危険認知, 視線運動, 医療安全, 看護学生, 看護師 クリティカルケア看護 -----	83
講師	岡崎 瑞生	救急看護, 周術期看護, エンドオブライフケア 老年看護学 -----	83
講師	小野 あゆみ	生活の質, 高齢者, 障害者, 家族支援 成人看護学 -----	83
講師	片山 将宏	慢性期看護, エンドオブライフケア, 肝疾患患者の支援, 集団教育 成熟看護学 -----	84
講師	川口 恭子	慢性疾患看護, 生活習慣病看護, 脳卒中看護 公衆衛生看護学 -----	84
講師	喜多下 真里	公衆衛生看護, 保健師活動, ひきこもり, 家族支援 成人看護学 -----	84
講師	下通 友美	がん看護, 緩和ケア 精神看護学 -----	85
講師	関 恵子	心の病気 (精神疾患), 地域生活支援, 精神科訪問看護 基礎看護学 -----	85
講師	千田 美紀子	看護技術, リラクゼーション, マッサージ, 看護師の腰痛 基礎看護学 -----	85
講師	玉川 あゆみ	学生, 学び, 実習指導, 腰痛予防, 教育 小児看護学 -----	86
講師	中川 美和	発達障害児とその家族への看護, プレパレーション クロニックケア看護 -----	86
講師	藤平 麻理子	慢性疾患看護, 語り, ライフヒストリー 母性看護学 助産学 -----	86
講師	松井 宏樹	シミュレーション教育, 医療安全, 危険予知, 助産師の実践能力, 助産師教育 老年看護学 -----	87
講師	渡邊 友美子	高齢者, 看護, 骨粗鬆症 母性看護学, 助産学 -----	87
助手	國丸 周平	育児不安, 子育て支援, 産後の母親サポート 成人看護学領域 -----	87
助手	濱野 裕華	エンドオブライフケア, 意思決定支援 母性看護学, 助産学 -----	88
		助産師, 子育て, 母子保健, 地域	

## 全学共通教育推進機構

特任教授	福井 雅英	臨床教育学, 教師教育 -----	89
准教授	坂本 輝世	子ども理解のカンファレンス, 生徒指導, 教師の専門性, 学校論 外国語教育論 -----	89
特任准教授	柴川 真由美	大学英語教育, (WTC) Willingness to Communicate 外国語教育, 日本語教育, e ラーニング, 社会言語学 -----	90
		言語学, 第二言語習得, 日本語	

## 地域共生センター

准教授	鵜飼 修	地域計画, 地域活性化, まちづくり, NPO, コミュニティ・ビジネス -----	91
		持続可能, 地域づくり, 地域ビジョン, 地域診断法, 健康まちづくり, コミュニティ・ビジネス, ワークショップ, まちづくり基本計画	

講師	上田 洋平	地域文化学, 地域学-----	91
		地域再生, まちづくり, 地域文化, 地域資源活用, 地域人材育成	
特任准教授	西岡 孝幸	経営全般, 起業支援-----	92
		経営分析, アカウンティング, 金融, ビジネス・インキュベーション	

## 学生支援センター

特任教授	高松 徹	機械工学, 破壊力学, 信頼性工学-----	92
		薄板金属材料, 複合材料, セラミックス, 薄膜, 疲労	

## 地域ひと・モノ・未来情報研究センター

准教授	杉山 裕介	偏微分方程式論-----	92
		偏微分方程式論, 調和解析, 実関数論	

# 研究者一覽

# 理事長・学長 理事・副学長

廣川 能嗣

HIROKAWA Yoshitsugu

理事長・学長



**専門分野**：機能性高分子材料，高分子ゲル科学

**キーワード**：高分子，ゲル，プラスチック，ゴム，繊維

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

プラスチック、ゴム、繊維などの高分子材料は、金属材料やセラミックス材料とともに、我々の生活になくてはならない材料となっています。その一方で、高分子の特徴である難分解性が環境問題を引き起こしたりしています。

学生時代に高分子化学を勉強し、高分子の素材メーカーで、30年近く研究開発に従事していました。また、滋賀県立大学では、高分子ゲルの合成、性質、応用について研究を進めてきました。

これらの経験から、高分子ゲルのみならず、高分子材料一般について、その作り方や性質、使い方など、材料の研究開発の面白さをはじめ、高分子の環境問題など、いろいろな観点からお話することができます。



倉茂 好匡

KURASHIGE Yoshimasa

理事・副学長



**専門分野**：地形学，陸水物理学，大学授業改善活動，スペイン語

**キーワード**：地形学の基本，河川とその周辺の地形，授業の基本，カリキュラム点検法，初級中級のスペイン語

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

本来の専門は、河川の土砂運搬です。河川の濁りのこと、土砂の流れ方などを専門に研究してきました。そのためには、地形学の基本的な考え方も理解してはなりません。これらに関連する講演など、これまでに多数行ってきました。また、もともとが中学や高等学校の理科教師だったので、その経験に基づいて、大学での授業改善活動を行っています。多くの大学で、授業の基本やアクティブラーニング、カリキュラム点検などに関するワークショップなどを開催しています。また、小学校段階を南米ボリビアで過ごしていたため、中央アンデス訛りのスペイン語を話します。この経験をもとに、初級や中級のスペイン語を本学学生に教える活動も行っています。





**専門分野：**エンジンシステム工学

**キーワード：**ディーゼルエンジン, バイオ燃料, 油脂, 燃焼, エネルギー

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

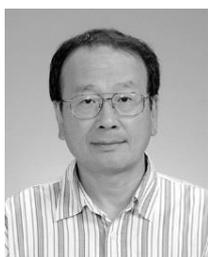
研究では、たとえば軽油に代替することで地球温暖化防止に役立てるため、使い終わったあとの食用油や琵琶湖の藻からバイオディーゼル燃料を製造し、自動車や船などのエンジンで利用する際の課題を解決する方法を研究し、NPO や民間企業等の技術向上に寄与しています。また、カーボンリサイクル燃料に関する講演や大手のテレビ局の情報・教育番組への出演など、研究成果の社会還元も積極的に行っています。加えて、環境審議会大気環境部会委員などで県内外の自治体の施策策定等に貢献しています。さらに、県内高校の高大連携講座やレイカディア大学などで県民の知のリソースとして寄与しています。



# 環境科学部 環境生態学科

西田 隆義 NISHIDA Takayoshi

環境科学部環境生態学科 教授



**専門分野：**生態学

**キーワード：**外来種, 希少種, 保全生態学, 動物, 植物

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

外来種の侵入により在来種が駆逐される原因を解明して、在来種の保全策を立てることを目的に研究しています。具体的には、外来種からの繁殖干渉（近縁な異種間でのセクハラ）と捕食の非致死効果（捕食されないための工夫がもたらすコスト）に着目しています。こうした自然の中に潜んでいる意外な力をうまく利用して、お金をかけずに効率的に在来種の保全をしたいと考えています。研究の対象は、昆虫、ブラックバスやブルーギルなどの動物から、タンポポなどの雑草まで幅広く取り扱っています。

✉ nishida.t@ses.usp.ac.jp

小泉 尚嗣 KOIZUMI Naoji

環境科学部環境生態学科 教授



**専門分野：**地震地下水学, 滋賀県の地震災害

**キーワード：**地下水, 地震, 地殻変動, 活断層, 地震予測

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

活断層による琵琶湖周辺の環境形成に関する研究

琵琶湖は、断層活動（大地震）のくり返しによって保持されてきた湖で、周囲や湖底には多くの活断層があります。これらの活断層は、1909年姉川地震（死者約40名、最大震度6）のような災害をもたらす一方、平常時は地下水の通路となっていて、水や溶存物質を安定的に供給して、琵琶湖周辺の環境を維持し住民の生活を支えます。活断層の地震リスクだけでなく、恵みとしての部分も明らかにすることで、琵琶湖の環境についての新たなモデル作りに貢献します。また、研究成果を地元還元することで滋賀県の地震防災・減災にも役立つと考えています。

✉ koizumi.n@ses.usp.ac.jp



**専門分野：**水圏生態学

**キーワード：**プランクトン，琵琶湖，水草利活用，メタン発酵，微細藻培養

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

真珠貝による水質浄化機能：草津市の受託研究として、淡水真珠養殖復興事業において、真珠貝による環境浄化機能の検証を行いました。

水草利活用：琵琶湖南湖で厄介者になっている沈水植物（水草）の利活用技術を開発中です。水草をメタン発酵処理することでエネルギーを取り出し、さらに発酵消化液を用いて微細藻類を培養し、消化液中の栄養塩を有価物に変換します。我々の研究室では、この発酵消化液の有効活用法を開発することによって、水草を循環利用するための研究を行っています。現在も、関係大学・研究所、関連企業と共に、実用化に向けた研究を推進中です。

✉ ban@ses.usp.ac.jp



**専門分野：**水圏化学，分析化学

**キーワード：**琵琶湖，リン，化学形態，微量分析，環境動態

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

琵琶湖を中心とする集水域には様々な土地利用、地質があり、河川や地下水の水質は本当に様々です。地域の水域にある水について、目に見えないものについてもよく理解し、親水空間への関心を深めていくお手伝いができればと思います。

✉ maruo@ses.usp.ac.jp



**専門分野：**陸水生物学，寄生虫学

**キーワード：**寄生虫，分類，底生動物，生物多様性，陸水

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

陸水の底生動物および寄生生物の分類・生態学的研究を主に行っています。川や湖にすむ水生昆虫・貝類等の調査や、生息環境保全へのアドバイスを行うことができます。

✉ urabe@ses.usp.ac.jp





**専門分野：**生態学

**キーワード：**木の実，里山，鳥獣害，トチノキ，外来水草

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

木の実と、それを食べタネを運ぶ鳥や獣との関係を研究してきました。そこからタブノキ林の保全や、クマの出没予測に役立てるためのブナ林の木の実の調査を（秋に県庁と共同で）しています。イノシシとサルによる農作物被害と里山環境の関係を研究して、山すそを伐採し「緩衝帯」を作って獣害を減らす提案をしました。それを手がかりに里山を使う将来像を考え、関連して焼畑の復活、源流域のトチノキ巨木林の保全、伊吹山や鈴鹿山脈の植物をシカから守る取組を行っています。また琵琶湖周辺に定着したオオバナミズキンバイなどの外来水草の研究と駆除も行っています。

✉ noma@ses.usp.ac.jp



**専門分野：**陸水学

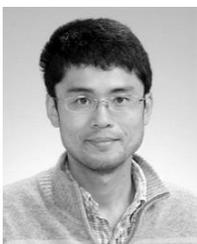
**キーワード：**琵琶湖，水質，物質循環，植物プランクトン

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

琵琶湖の水環境について研究しています。現在は、主に、植物プランクトン群集の動態について研究を進めています。植物プランクトンは琵琶湖の水環境を左右する生物であるため、その動態を詳細にモニタリングすることは重要なテーマとなっています。

そのため、人工衛星や光学測器を用いて、植物プランクトンの現存量、種組成、一次生産速度を時空間的に高解像度で測定する手法を開発しています。その他、琵琶湖北湖湖底付近における溶存酸素動態（貧酸素化）や栄養塩動態についても研究を進めています。

✉ gotonao@ses.usp.ac.jp



**専門分野：**理論生態学

**キーワード：**数理モデル，統計解析，生物群集，空間パターン形成

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

不思議な現象に直面したとき、頭の中で説明を試みることもあると思います。しかし、その説明は本当に成り立つのでしょうか？説明は、他の条件に左右されて、あるいは打ち消されて成立しないかもしれません。このような場合、現象を数式（数理モデル）で表して計算することで、どのような条件下で現象が生じるか否かを明らかにすることができます。数理モデルは、現象全体を捉えてシンプルに表し理解を一歩すすめるツールです。

私は生態系を対象に数理モデル、統計を用いて研究していますが、これらの手法は様々なことに対して有効です。なにかありましたらぜひご相談いただければと考えています。

✉ yoshiyama.k@ses.usp.ac.jp



**専門分野：**環境変遷学

**キーワード：**第四紀，古環境復元，堆積物，微化石，浮遊性有孔虫

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

地球の過去のようす“古環境”を明らかにする研究に取り組んでいます。地球の環境はどのように移り変わってきたのか？そのメカニズムは？その答えが将来の地球環境を予測するためのヒントとなるかもしれません。古環境を復元するために、海底・湖底にふり積もった堆積物やそれに含まれる“微化石”を調べています。

これまでの研究成果をもとに、微化石とはなにか、微化石からどのようなことがわかるのかについて、高校生向けに紹介することができます。

✉ domitsu.h@ses.usp.ac.jp



**専門分野：**分子微生物，環境微生物，微生物生態学

**キーワード：**有毒・有害プランクトン，微生物制御，遺伝子発現解析，微生物群集構造解析

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

生態系において、様々な物質循環は微生物が担っています。地球温暖化や水質悪化といった地球環境問題は、その循環が崩壊した結果生じたものです。私は、特に水域における物質循環の劣化および修復に関する研究をしています。具体的には、琵琶湖集水域の水田がプランクトン増殖に及ぼす影響を調べたり、生物由来の物質を用いた水質浄化の研究を行っています。

✉ tanabe.sh@ses.usp.ac.jp



**専門分野：**森林生態学

**キーワード：**森林，生態系，環境形成機能，物質循環，琵琶湖集水域

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

森林が環境に果たしている役割について、森林生態系（植生と土壌）における炭素や窒素、微量元素の物質循環に注目して研究しています。琵琶湖の上流部に位置する森林を対象とし、とくに天然林・里山林での自然的・人為的な植生変化が、土壌と林外の大気・水に与える影響、そして琵琶湖や地球環境にもたらす影響を明らかにしていきます。滋賀県や県内の市町、各種機関と連携し、地域の森林の問題について多角的な視点から、ともに検討していきたいと考えています。

✉ kagotani@ses.usp.ac.jp

肥田 嘉文 HIDA Yoshifumi

環境科学部環境生態学科 講師



**専門分野**：環境科学，影響評価科学

**キーワード**：安全観，天然毒性，化学物質，リスク評価，体の柔らかさ

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

内分泌かく乱物質（環境ホルモン）の問題に取り組んできたなかで、バックグラウンドとなる自然にもともと備わっている作用と相対化して毒性影響を俯瞰することの意義を学びました。これをきっかけに、突然変異の自然発生の仕組みから自然が行うリスク受容をデータとして示す研究、人が体を硬くするのは重力を受けるのに適応した股関節への力のかけ方が変わったためであるとの仮説の検証、などにテーマを広げ、自然に学ぶ視点で実地調査に基づく研究をしています。

また環境や健康への影響、それに対する社会での様々な管理・対策について、中学・高校の先生方に解説、講義をすることができると思います。

✉ [yhida@ses.usp.ac.jp](mailto:yhida@ses.usp.ac.jp)

尾坂 兼一 OSAKA Kenichi

環境科学部環境生態学科 講師



**専門分野**：森林水文学

**キーワード**：水質，同位体比，森林，集水域

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

主に森林の栄養塩循環と森林から流出する河川水質の関係について研究しています。産業革命以降、化石燃料や窒素肥料生産の増大で大気中の窒素酸化物が増加し、降水中の窒素酸化物が増えていますが、それが森林に与える影響や河川水質に与える影響も研究しています。

✉ [osaka.k@ses.usp.ac.jp](mailto:osaka.k@ses.usp.ac.jp)

工藤 慎治 KUDO Shinji

環境科学部環境生態学科 講師



**専門分野**：大気科学

**キーワード**：大気汚染物質，微小粒子状物質（PM2.5），化学分析，発生源解析

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

私は、大気中に浮遊している物質の環境動態に関する研究に取り組んでいます。大気中には「臭いのある物質」や「目に見えない小さな物質」、「都市部や国外から輸送されてきた物質」などが存在しています。それらの物質は“大気汚染”に関係しており、その形態は気体や液体、固体とさまざまです。また、大気中に放出された物質が影響を及ぼす範囲は、発生した地点周辺の地域的なものから地球規模の広域的なものまで幅広く、大気だけでなく土壌や河川（湖・海）へと循環していきます。大気中に浮遊している物質の化学分析を通して物質の組成や発生源を調査し、地域に貢献していきたいと考えています。

✉ [kudo.s@ses.usp.ac.jp](mailto:kudo.s@ses.usp.ac.jp)

# 環境科学部 環境政策・計画学科

金谷 健 KANAYA Ken

環境科学部環境政策・計画学科 教授



**専門分野**：廃棄物管理

**キーワード**：廃棄物政策，廃棄物処理計画，廃棄物処理施設，自治体，施策の有効性と限界

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

私は廃棄物の3R（廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル））や適正処理を促進するための、各種システムの有効性と限界に関する研究をしています。こうした研究に関連して、滋賀県や滋賀県内の市町などの廃棄物関連の審議会や委員会（廃棄物減量推進等審議会、処理施設整備検討委員会、処理施設立地選定委員会、処理施設整備事業者選定技術審査委員会、処理施設運営事業者選定技術審査委員会など）に委員として参画してきました。大学での教育研究に支障のない範囲で、今後も、こうした参画が可能と考えます。

✉ kanaya@ses.usp.ac.jp



井手 慎司 IDE Shinji

環境科学部環境政策・計画学科 教授



**専門分野**：水環境管理

**キーワード**：琵琶湖，水質，生態系，景観，住民参加

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

私の最大の関心事は、かつての美しかった琵琶湖をどのようにすれば取り戻せるか、という点にあります。そのための研究としては、琵琶湖やその周辺地域の水環境や景観を守るために行われてきた住民運動の歴史や、干拓で消えてしまった内湖の当時の様子などを調査してきました。環境を再生・保全するための計画の策定や実施の段階において、いかに意味のある住民参加を実現できるかにも強い関心を持っています。そのため調査研究の傍ら、滋賀県内の関連する各種計画の策定や推進に携わるとともに、その実現に向けて人と人、活動と活動をつなぐ実践的な活動にもこれまで取り組んできました。

✉ ide@ses.usp.ac.jp





**専門分野**：環境法・環境政策

**キーワード**：自然環境保全制度，外来水生植物管理制度，地球環境条約制度

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

琵琶湖沿岸で問題になっている水陸両生の外来植物オオバナミズキンバイなどの管理体制・制度について、県・市の方々と協力しながら研究しています。2017、18年度は琵琶湖博物館にご協力いただき「水陸両生の侵略的外来植物の管理に関するワークショップ」を開催しました。また2020年には、日仏英の専門家たちと侵略的外来植物管理のための法制度に関する比較研究論文を出しました。もともとの専門は、地球環境条約制度で、それらの長期的な制度変化に関心があります。2017年度には、本学公開講座で、気候変動条約制度を題材に「生きた環境条約交渉」について講演しました。なお、環境省時代に書いた日本における官能式測定法も含めた臭気規制に関する英語報告論文は、海外の研究者により多数引用されています。途上国でも経済発展に伴って臭気規制に関する関心が高まっているものと推察します。彦根市環境審議会と長浜市環境審議会の会長を務めています。  
 ☒ kamigawara.k@ses.usp.ac.jp



**専門分野**：森林政策・計画，環境経営

**キーワード**：森林認証，水源林，環境支払い，環境マネジメントシステム，環境マーケティング

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

林業の主産地ではない滋賀での森林と社会とのつながりのあり方を考えています。そのため、木材だけでなく森林の環境機能を「売る」ための手法、たとえば森林認証、地域コミュニティによる管理、下流からの環境支払いを事例として研究してきました。企業、組織の本業に環境配慮を組み込む方法として、環境マネジメントシステム、環境マーケティングについても注目しております。研究では、アンケート、事例研究などの社会調査、シミュレーションなどの手法を利用します。また、滋賀県独自のCSR—近江商人の「三方よし」についても関心を持ち、実務家の方と顕彰活動を進めております。  
 ☒ tak@ses.usp.ac.jp ; taka.takuya@gmail.com



**専門分野**：環境地理学，都市社会地理学

**キーワード**：公害反対運動，地域住民，地域環境問題，工業都市，沿岸域

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

日本の工業都市において発生した公害問題に対して、地域住民がどのように対応してきたかという問題意識から、公害反対運動を中心に事例研究を進めてきました。滋賀県や琵琶湖では極端な公害問題は発生していませんが、身近な地域や日常生活において関心をもたれる環境問題を取り上げて、積極的に活動に取り組む人々に調査をしています。最近ラムサール条約湿地の調査に関わっていることから、沿岸域の漁業者や農業者がどのように環境問題に対応してきたかを調べつつあります。さまざまな時代や現場で環境問題を研究してきたことから、地域の人々による環境問題への取組に貢献できます。  
 ☒ kagawa@ses.usp.ac.jp



瀧 健太郎 TAKI Kentaro

環境科学部環境政策・計画学科 准教授



**専門分野**：流域政策・計画

**キーワード**：水工学，自然災害科学・防災学，土木環境システム

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

川の日（7月7日）生まれ。大学院修了後、民間企業を経て滋賀県庁勤務（18年間）ののち現職。河川・流域政策の実務を長年にわたって担当した。数多くの川や人との様々な出会いを通じ、川の魅力に取りつかれている。また、どんな川であっても、地域に愛される川こそが“いい川”だと信じている。

現在は、流域の水循環と社会システムとの相互関係に着目し、持続可能な流域社会の実現に向けた政策や計画に関する研究を進めている。流域政策・計画に関する学問分野の体系化を目指す。

✉ taki.k@ses.usp.ac.jp



林 宰司 HAYASHI Tadashi

環境科学部環境政策・計画学科 准教授



**専門分野**：環境経済学

**キーワード**：貿易と環境，地球温暖化，気候変動

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

国境を超える環境問題について研究してきましたが、地域における環境対策が自発的に進められるような経済的なインセンティブの仕組み作りについても協力・連携が可能です。環境政策の応用分析として、再生可能エネルギーの普及策、有機野菜・減農薬野菜の流通促進、外来植物の駆除や生態系の保全、パーク・アンド・ライド交通政策などにも関心がありますので、これらについてもご協力できるかと思えます。

✉ thayashi@ses.usp.ac.jp



村上 一真 MURAKAMI Kazuma

環境科学部環境政策・計画学科 准教授



**専門分野**：行動経済学，環境経済学，開発経済学

**キーワード**：環境配慮行動，サプライチェーンマネジメント，意思決定プロセス，Nudge，EBPM

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

「インセンティブ情報」×「他者との関わり・ネットワーク」の効果に関する研究：近年行動経済学で用いられている RCT による社会実験と、意思決定モデルを組み合わせた研究により、個人の意識と行動に与える影響の包括的なメカニズムの解明と、それに基づく新たなしくみ・制度づくりの研究を進めています。

グリーン&レジリエントなサプライチェーンに関する研究：サプライチェーン全体を対象とした、CO2 削減や廃棄物削減を含めた環境全般に配慮した企業経営が急務であり、取引先への環境配慮要請による環境経営の普及や環境負荷低減の現状・課題の把握、その課題解決のための方策を検討しています。

✉ murakami.k@ses.usp.ac.jp



和田 有朗 WADA Nariaki

環境科学部環境政策・計画学科 准教授



**専門分野**：環境計画，環境政策

**キーワード**：環境意識，環境配慮行動，小型家電リサイクル，エネルギー教育

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

都市、地域でのアンケート調査を中心に生活環境、人の環境に対する認識と行動、利用者意識の評価の研究をしてきました。具体的には、小型家電リサイクルの回収量を増やす方策を検討するため、小型家電の回収活動に参加し、排出者の意識調査を行っていたことがあります。また最近では、大学生を対象にしたエネルギー教育プログラムを実践した場合の教育効果の分析なども行っています。

持続可能な社会を目指し、人々の環境に対する意識の向上と環境配慮行動の促進、そのための環境教育などについて考えています。

✉ wada.n@ses.usp.ac.jp



平岡 俊一 HIRAOKA Shunichi

環境科学部環境政策・計画学科 講師



**専門分野**：環境ガバナンス、市民参加・協働、社会学

**キーワード**：持続可能な地域づくり，市民参加・協働，NPO，中間支援組織，地域エネルギー政策

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

地域社会の活性化に貢献できる環境保全活動・政策（持続可能な地域づくり）に関心を持ち、その推進を支える組織や人材、支援制度などの「社会的基盤」の整備について研究を行っています。具体的には、取り組みの重要な担い手と期待される NPO/NGO や社会的企業、中間支援組織（ローカルシンクタンク）の機能・体制の強化、地域の多様な主体が参画、連携した「地域協働型」の活動・政策を促進する仕組みづくり、などに注目しています。NPO 職員・役員としての実務経験を活かしながら、自らも地域での実際の活動・政策等に関与しながら調査を行う「参与観察調査」を国内各地で実施しています。

✉ hiraoka.s@ses.usp.ac.jp



平山 奈央子 HIRAYAMA Naoko

環境科学部環境政策・計画学科 講師



**専門分野**：湖沼政策学

**キーワード**：政策過程論，参加型流域管理，連携・協働

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

琵琶湖・淀川流域の環境は人々の暮らしや産業など様々な活動と繋がっており、自然環境の保全や利用のための活動が市民活動団体・行政・企業など多様な主体によって実施されています。これらの個々の活動や政策が流域環境のどのような変化に繋がっているのか、さらなる課題は何かなどについて様々な視点で考えることが重要だと考えています。滋賀県だけではなく京都府・大阪府・兵庫県なども含めた琵琶湖・淀川流域の水環境について一緒に考えたいと思います。これまでの活動経験から参加や連携の場のデザインやコーディネート（調整）をお手伝いすることができます。

✉ hirayama.n@ses.usp.ac.jp





**専門分野：**エネルギーシステム学

**キーワード：**エネルギーシステム, シミュレーション分析, 電力システムモデル, 電力需要, 要因分解

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

専門はエネルギーシステム学です。国や地域のエネルギー・環境政策の検討を支援できるような定量的な分析をしています。具体的には、地域特性を踏まえた気候変動緩和策の検討材料を提供するため、環境面・経済面を複合的に考慮可能な数理モデルによるエネルギーシステム分析を行っています。また、家庭の電力消費量の計測データやアンケート調査の結果を元に、家庭部門の省エネを推進する方策を検討するための分析なども行っています。

✉ shiraki.h@ses.usp.ac.jp



## 環境科学部

# 環境建築デザイン学科

陶器 浩一 TOKI Hirokazu

環境科学部環境建築デザイン学科 教授



**専門分野：**建築構造

**キーワード：**構造計画，構法，竹構造，ものづくり，建築設計

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

「築くことは生きること」ものづくり（築くこと）を通じて、地域・場所を再生し、元気にする活動を行っています。地域に生育する竹を用いて学生たちと築いた“場”を2例紹介します。【竹の会所（気仙沼市）】東日本大震災で途絶えかけていた地域芸能を守るため、地域の竹1000本を用いて学生たちと集会所を築きました。それ以降毎年2回訪れて地域交流を続けています。【BAMBOO PARK（湖南省）】荒れ放題の竹林を再生するため、その場で伐った竹を用いて、林の中に“こどもの国”を築きました。自然と人との関係を見直すきっかけとなる場所です。

いずれのプロジェクトも、学生たち、地域の方々、地域の子供たちが一緒になって地域の未来づくりを目指しています。

✉ toki@ses.usp.ac.jp



村上 修一 MURAKAMI Shuichi

環境科学部環境建築デザイン学科 教授



**専門分野：**ランドスケープデザイン

**キーワード：**景観，風景，造園，土地の履歴，グリーンインフラ

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

どのような場所でも様々なことが作用し合っています。その結果として、その場所の景観（ランドスケープ）が現れます。景観の背景にある様々なことを、フィールドワークをおして読み解き、地域の課題や可能性を掘り起こして、新たな景観や空間をデザインすることをテーマとして活動しています。

✉ shuichim@ses.usp.ac.jp





**専門分野：**建築構造学

**キーワード：**応用力学，構造最適化，構造形態創生，木質構造，耐震診断

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

木造・最適化・地震防災を主要なテーマとして、解析的および実験的研究を行っています。特に木造については、木造住宅の耐震補強方法として木製面格子壁に着目し、その耐震性能を実験や解析によって明らかにする研究や、製材や木造の接合部、木造による新構法の力学性能に関する実験的研究を行っています。近年、日本では木材を積極的に利用しようとする動きがあり、これらの研究は、地域再生・地域活性化と関連させて、自治体や企業などからの委託研究・共同研究として行っています。

✉ takada@ses.usp.ac.jp



**専門分野：**建築史，建築設計理論

**キーワード：**建築デザイン，都市デザイン，空間ストック活用，創作的歴史学

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

人口縮小時代あるいは、空き家などの活用が課題となる空間ストック活用時代に、デザインができることを考えていきたいと思っています。現在の地域活動としては、滋賀県内の様々な地域で、地域に存在する様々な建築・都市空間の新しい活用方法を探求しています。その実践として、彦根市や多賀町での空き家の再生、西の湖に生息する葦を利用したドーム建築を建設することによる、近江八幡市内のパブリック・スペースの再生を試みてきました。また、新たな空間デザインの可能性を探るため、過去の建築・都市デザインを歴史的に考察し、現代的な手法を考える探求も行っています。

✉ shirai.h@ses.usp.ac.jp



**専門分野：**建築デザイン

**キーワード：**建築設計，環境建築，建築デザイン，サステイナブルデザイン，パッシブデザイン

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

場所固有の建築デザインについて研究を行っています。地域ごとに異なる環境、歴史や文化をリサーチし、それらを汲み取りながら現代的に継承・発展するための設計・デザイン方法論の研究です。また自然環境と人間との接点を建築によっていかにつくるか日々考えています。ヨシや流木、土など地域の自然素材を用いた新しい建築デザインの研究も行っています。最近ではインド貧困地域での構法研究やアジア洪水圏の災害対策建築の研究などにも取り組んでいます。

✉ ashizawa.r@ses.usp.ac.jp



金子 尚志 KANEKO Naoshi

環境科学部環境建築デザイン学科 准教授



専門分野：建築環境デザイン

キーワード：環境共生，地域環境，自然エネルギー，パッシブデザイン，サステイナブルデザイン，ZEB，ZEH

地域連携・産学連携・地域活動について：

地域のポテンシャルをかたちにするパッシブデザインを軸に、身の回りにある様々な環境要素と建築・都市の結びつきをとらえることから、環境と応答する建築と都市のあり方を研究しています。持続可能な社会の実現には、建築・都市におけるエネルギーと資源循環のシステム効率化とともに、それらが建築・都市の姿・形と関係することが重要です。建築・都市の姿・形をつくる原理を読み解き、現代の社会にふさわしい地域の自然環境や歴史の特徴をとらえた意匠と、そのポテンシャルを活かすための環境工学視点・エンジニアリング、それらを高度に統合させた建築環境デザインを探っていきます。

✉ kaneko.n@ses.usp.ac.jp



ヒメネス ベルデホ ホアン ラモン JIMENEZ VERDEJO Juan Ramon

環境科学部環境建築デザイン学科 准教授



専門分野：建築史・意匠，都市計画・建築計画

キーワード：建築・歴史，スペイン植民地都市，都市再生，遺産修復保存

地域連携・産学連携・地域活動について：

私の研究は、都市と建築計画、建築の歴史と意匠です。特に、中南米と東南アジアのスペイン植民地都市の起源、形成、変容の研究が大きなテーマです。また、災害、震災後の都市とコミュニティの再生、復興を目指し、現在フィリピンのタクロバン市の住宅再生とセブ島とボホール島の遺産修復保存を進めています。

✉ juan@ses.usp.ac.jp



轟 慎一 TODOROKI Shinichi

環境科学部環境建築デザイン学科 准教授



専門分野：都市・地域計画，都市政策，地域環境デザイン，集落論，生活空間論

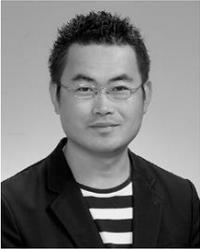
キーワード：生活空間論，集落論，景観論，都市政策，都市・地域計画

地域連携・産学連携・地域活動について：

都市・集落の空間・コミュニティ・環境の構造と、その計画論・まちづくりについて探求しており、特に、生活と空間の関係性に着目した計画論的研究を行っています。具体的には、「生活史・生業史と空間構造」「生活行為・コミュニティと生活空間・居住環境」「境界空間からみた公・共・私」「地域環境と生活景」「景観の保全・活用」「地域共生とまちづくり」「都市計画システムと事業展開」「人口減少時代の都市・地方と少子高齢社会」「定住環境としての中心市街地・歴史的街区・集合住宅・郊外住宅地・農山漁村」「地域居住と持続・再生」などをテーマとしています。

✉ todoroki@ses.usp.ac.jp





**専門分野：**建築メディア論

**キーワード：**建築・デザインの展覧会，キュレーター，近代建築史，デザイン史

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

私はメディアを通じて、社会の中で、建築がどのように理解されてきたのかを研究しています。「名建築」として知られる建築物であっても、足を運びにくい場所にあるものは少なくありません。ですから、多くの建築は写真や文章に形を変え、展覧会や雑誌を通じて影響力を高めてきました。地域の遺産である建築物であっても、伝達方法によって市民の愛着や理解度は変わります。より魅力的な伝え方を一緒に考えることで、地域に貢献できればと思います。

✉ yamasaki.y@ses.usp.ac.jp



**専門分野：**都市・建築計画

**キーワード：**建築計画，アーキテクトビルダー，アジア都市史，地域計画，建築設計

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

これまでにフィールドサーヴェイによるアジアの都市組織研究を行ってきました。その土地の歴史の変遷、都市環境問題、農村開発、コミュニティの構成、建築類型をリサーチし、大規模開発によらない持続的都市建築のあり方を考えます。

一方で、滋賀県を舞台にして、歴史的な民家や空き家課題、里山の整備に対応するデザイン&ビルドを実践します。

このようにグローバルとローカルの課題を同じ位相で扱い、細分化された専門性に偏ることのない実践教育とアーキテクトの育成を目指します。

✉ kawai.m@ses.usp.ac.jp



**専門分野：**建築空間論，環境行動論，作品論

**キーワード：**デザイン史，人の行動と環境，芸術と建築，科学・思想と建築，物語に表現された空間

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

一個の生命体としてのヒトの生活行動と建築の空間性の発現の問題を中心に、建築の効用性と芸術性、安全性という、建築が基本的に備えていなければいけない課題について、総合的な建築理論として研究しています。芸術や心理学、行動や解釈学、芸術と科学・思想の歴史、生命システム論と認知科学など、幅広い分野が関連する分野になります。風景学や地域論とも関連していますので、地域づくりに関するアドバイスや芸術と建築などのテーマで出前講義などをすることができます。

✉ sakota@ses.usp.ac.jp



高屋 麻里子 TAKAYA Mariko

環境科学部環境建築デザイン学科 講師



専門分野：日本建築史・都市史

キーワード：土蔵、城郭、武家屋敷、中世近世都市、GIS

地域連携・産学連携・地域活動について：

地域の歴史的資産のなかには、存在が知られていながらも建物などが現存していないがために活用が十分とはいえない事例も多くあります。現存しない建築や景観を建築史や都市史の研究に基づいて復元し、3D-CG などを用いて当時の様子を視覚化しています。ゲームのステージ設計や、地域の歴史的な評価、新たな観光資源へとつながるかもしれません。

✉ takaya.m@ses.usp.ac.jp



鄭 新源 JEONG Sinwon

環境科学部環境建築デザイン学科 講師



専門分野：建築環境工学，環境性能評価，環境心理

キーワード：建築環境工学，環境性能評価，建築環境心理，光環境

地域連携・産学連携・地域活動について：

人間と建築空間・環境との関係を明らかにすることを目標にし、住宅、オフィス、学校など様々な建築空間における人間の心理的評価・行動と物理環境刺激・居住環境情報との関係について調査および実験的手法を用いて行っています。

この地域の建築・都市環境と其中で人々の生活文化が作り上げるものを空間軸と時間軸で評価していくことで、地域の過去と現在を評価するとともによりよい未来を作っていくことに寄与する研究を取り組みたいです。

✉ jeong.s@ses.usp.ac.jp



永井 拓生 NAGAI Takuo

環境科学部環境建築デザイン学科 講師



専門分野：建築構造

キーワード：構造設計，素材，工法，コンピューテーション，デジタルデザイン

地域連携・産学連携・地域活動について：

- ・地域が求める建築、空間、の設計案・計画案の作成協力、提案を行います。
- ・地域のオリジナルな素材、遊休資源等を活用した建築、空間デザイン、素材開発の協力、提案を行います。
- ・林業と木造建築、木質素材の一体化に関する研究、開発を協力します。

✉ nagaitakuo@gmail.com



# 環境科学部 生物資源管理学科

大久保 卓也 OKUBO Takuya

環境科学部生物資源管理学科 教授



**専門分野：**環境工学，生態工学，水質科学

**キーワード：**水質，琵琶湖，河川，水田，在来魚

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

琵琶湖や各地域の河川、水路の水環境や在来魚の保全に向けて、住民、行政、企業の方々と協力して取り組んでいければと考えています。もともとの専門は水質ですが、最近では、在来魚の復活のためにどのような対策を行えばよいか研究を進めています。その他に、河川における瀬涸れ（水が途切れてしまう現象）に関する研究、水田での窒素、リンの動きに関する研究、農業濁水に関する研究、琵琶湖の貧栄養化に関する研究、道路の凍結防止剤の河川水質への影響に関する研究などを行っています。

✉ okubo.t@ses.usp.ac.jp



須戸 幹 SUDO Miki

環境科学部生物資源管理学科 教授



**専門分野：**環境化学

**キーワード：**農薬，水質，微量化学物質，環境動態，流出メカニズム

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

農薬は農産物の生産性向上や労働力軽減のために、これからの農業にも必要不可欠です。その一方、農地に散布された農薬が河川や琵琶湖に流出・残留し、生態系に影響を与えるのではという懸念がもたれています。農薬の環境リスクは、農薬の毒性と環境への流出性の2つの側面で評価する必要がありますが、須戸研究室ではこのうち環境への流出性について、滋賀県内の多くのフィールド調査・研究を行っています。研究の成果から、農薬の水環境に対するリスクを可能な限り小さくする方法を模索し、地域の農業と水環境の保全に貢献したいと考えています。

✉ sudo@ses.usp.ac.jp



杉浦 省三 SUGIURA Shozo

環境科学部生物資源管理学科 教授



**専門分野：**水産学, 水産養殖, 魚類栄養学  
**キーワード：**水産, 魚類, 養殖, 養魚飼料, リン

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

魚の養殖に携わって 50 年、特に飼料（えさ）の開発研究では 35 年の実績があります。国内外の養殖現場で、ニジマス、ウナギ、マダイ、アメリカナマス、コイ、テラピアなどの養殖業に従事。飼育経験（研究、実験、趣味を含む）は約 200 種です。研究の専門分野は養魚飼料学、魚類栄養学。1964 年愛知県池鯉鮒出身。

✉ sugiura@ses.usp.ac.jp



泉 泰弘 IZUMI Yasuhiro

環境科学部生物資源管理学科 教授



**専門分野：**作物学, 栽培学  
**キーワード：**イネ, 雑穀, ダイズ, 間混作, 湿害対策

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

ダイズについては滋賀県を含む本州では転換畑や水田裏作での栽培が大部分であり、その際に大きな問題となっている湿害を軽減するための新しい栽培技術の確立を目指しています。穀類（イネと雑穀のトウジンビエ）の研究については今のところアフリカ南部（ナミビア）での間混作の導入を目的としています。

✉ izumi@ses.usp.ac.jp



原田 英美子 HARADA Emiko

環境科学部生物資源管理学科 教授



**専門分野：**植物科学  
**キーワード：**重金属集積植物, 水生植物, 石灰岩土壌, 金属分析, DNA バーコーディング

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

重金属を集積する能力を持つ植物は現在世界中で約 500 種類が知られています。このような植物は、金属で汚染された土壌を浄化したり、役に立つ金属を効率的に回収したりする新しい技術の開発に利用できると考えられます。本研究室では、植物の重金属集積性をキーワードとし、琵琶湖水圏に特徴的な植物の性質を調べています。特に、琵琶湖の水生植物の有効利用法の開発、伊吹山に代表される石灰岩土壌に育つ植物の調査、重金属集積性の絶滅危惧種の保全に関する研究を行っています。

✉ harada.e@ses.usp.ac.jp





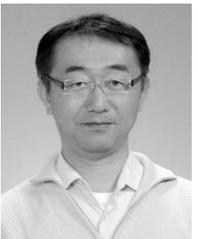
**専門分野：**応用微生物

**キーワード：**遺伝子, 酵素, 木質バイオマス, 菌類, きのこと

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

専門は応用微生物ですが、特にきのこに関する研究に力を入れています。きのこのなかでも白色腐朽菌と呼ばれるグループは木を単独で完全に分解できるという他の生物には無い機能をもっています。その性質を利用して刈草を飼料に変換したり、廃材から新素材を生産することを目標に研究を続けています。また、長持ちするシイタケの開発や、鮎寿司のような伝統食品に含まれる微生物の解析なども行っています。

✉ [tirie@ses.usp.ac.jp](mailto:tirie@ses.usp.ac.jp)



**専門分野：**土壌物理学, 農業農村工学

**キーワード：**土壌構造, 土壌化学, 土壌環境修復, ファイトレメディエーション, GIS

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

土壌内部構造に着目して水や塩類、汚染物質の移動に関する研究から、作物と土壌環境、乾燥地における節水灌漑や塩類集積問題などに広がってきました。その流れから、これまで高アルカリ土壌の周辺環境への影響や、廃棄瓦破碎物の地盤材・農業排水浄化材への再利用などについて、地域の企業とともに共同研究を進めてきました。一方、タイ東北部の農業生産状況や琵琶湖集水域の水路網の魚類や生態環境に関して、GIS(地理情報システム)を用いて分析してきました。

以上より、土壌関係、地域情報の地図化や面的評価に関して、お手伝いできると思います。

✉ [iwama@ses.usp.ac.jp](mailto:iwama@ses.usp.ac.jp)



**専門分野：**園芸学

**キーワード：**園芸, 花, 遺伝資源, 形態形成, 系統分類

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

研究では、DNA 配列に基づく植物の系統分類や、電子顕微鏡観察や遺伝子の発現解析による花の形態形成メカニズムの解明を行っています。また世界に広く利用されている観賞植物であり日本固有種であるアジサイについて、都市緑化植物として利用するのに適した育種素材の探索を行っています。

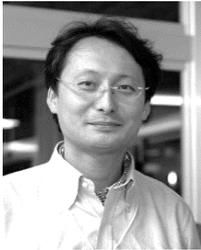
本学の授業（環境フィールドワーク）の一環として、学生とともに近隣の保育園において園児達と野菜の栽培を行っています。

✉ [uemachi@ses.usp.ac.jp](mailto:uemachi@ses.usp.ac.jp)



高倉 耕一 TAKAKURA Koichi

環境科学部生物資源管理学科 准教授



**専門分野：**生態学

**キーワード：**野生生物，在来種，外来種，害虫，統計解析

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

生態学の研究を通して、身の回りの生き物の不思議を解き明かしたり、生き物にまつわる問題を解決したりすることを目指しています。昆虫・魚類・両生類・鳥類・哺乳類・雑草などを対象に、外来種による在来種の影響や、人間活動による環境変化が生き物に及ぼす影響などを主なテーマとして研究しています。在来種の保全や有害生物の管理について、生態学的な視点からご相談に乗ることができます。また野外調査データには取扱いが難しいものが多いですが、その解析の経験を活かして、野外での調査法やデータの分析法についても助言できることがあるかもしれません。

✉ takakura.k@ses.usp.ac.jp



清水 顕史 SHIMIZU Akifumi

環境科学部生物資源管理学科 准教授



**専門分野：**植物遺伝育種学

**キーワード：**栄養ストレス耐性，バイオインフォマティクス，QTL 解析，全ゲノム関連解析，遺伝子探索

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

少ない肥料（主にリン）でよくとれるイネ品種の開発に向けて、近縁野生種を含む様々な遺伝資源の探索を行い、有用遺伝子の探索を行っています。有望系統は、滋賀県の良食味品種みずかがみ等への導入を進めています。最近では、リン肥料だけでなく農薬などの投入資源も節約できるイネの機能に着目した研究を、滋賀県農業技術振興センターの協力の下で行っています。

✉ ashimizu@ses.usp.ac.jp



増田 清敬 MASUDA Kiyotaka

環境科学部生物資源管理学科 准教授

**専門分野：**環境経済学，農業経済学

**キーワード：**環境保全型農業，環境効率，地球温暖化

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

滋賀県の環境こだわり農業（減農薬減化学肥料栽培）を事例として、環境への影響を最小にしつつ、農業所得を最大にするような環境保全型農業を推進するためには、どのような農業環境政策が有効なのかを研究しています。

✉ kmasuda@ses.usp.ac.jp



皆川 明子 MINAGAWA Akiko

環境科学部生物資源管理学科 准教授



**専門分野**：水田生態工学，農業水利学

**キーワード**：水田，農業水路，生態系配慮，維持管理

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

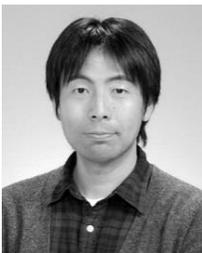
滋賀県で取り組まれている「魚のゆりかご水田」をはじめ、本来、魚類等の繁殖・成育の場ともなっていた水田水域においてどのように生産と生態系の保全を両立できるかを研究しています。また、農業生産を行う上で欠かすことのできない農業用水が過不足なく農地に届いているか、不足があればどのように解消できるかを研究しています。

✉ minagawa.a@ses.usp.ac.jp



飯村 康夫 IIMURA Yasuo

環境科学部生物資源管理学科 講師



**専門分野**：土壌化学

**キーワード**：土壌，有機物，物質循環，地球温暖化，バイオ炭

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

私の研究は土が自然（生態系）の中でどのような働きを担っているのかを科学的に明らかにし、我々の生活に土を活用する術を探求することです。現在取り組んでいる土を活用した地球温暖化抑制に関する研究は、これからの地域農業に多少なりとも貢献できる研究だと考えております。

✉ iimura.y@ses.usp.ac.jp



畑 直樹 HATA Naoki

環境科学部生物資源管理学科 講師



**専門分野**：蔬菜園芸学，植物工場

**キーワード**：養液栽培，低環境負荷，機能性成分，地域伝統野菜，連続光

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

蔬菜園芸学は野菜の発育、環境応答などの生物学的特性を明らかにし、野菜を安定生産するための種苗生産や栽培技術の開発、品種改良などを行う学問分野です。珍しい（地域伝統野菜や新野菜）、健康に良い（機能性成分やミネラル分が多い、有害成分が少ない）、食味が良い（糖度が高い）などの高付加価値野菜の生産や、低環境負荷型の野菜生産について、養液栽培技術や環境調節技術（特に連続光の利用）の観点から研究しています。

✉ hata.n@ses.usp.ac.jp



泉津 弘佑

IZUMITSU Kosuke

環境科学部生物資源管理学科 講師

**専門分野**：微生物分子遺伝学，植物病理学，農薬科学

**キーワード**：植物病原菌，菌根共生菌，殺菌剤，分子遺伝学

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

トウモロコシごま葉枯病や灰色かび病、ウリ類炭疽病などの植物病原糸状菌類がどのような仕組みで病気を引き起こすのかについて分子遺伝学的な手法を用いて研究しています。またこれらの病原菌を防除するための殺菌剤の作用機構および耐性化機構についても調べています。近年は、植物と共生する外生菌根菌の1種であるホンシメジの菌根共生メカニズムの研究にも取り組んでいます。

✉ izumitsu.k@ses.usp.ac.jp



中川 敏法

NAKAGAWA Toshinori

環境科学部生物資源管理学科 講師

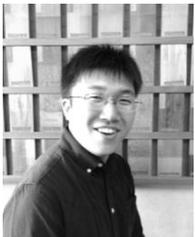
**専門分野**：家畜生産学，家畜飼養学，飼料開発・分析

**キーワード**：家畜家禽，飼料成分，未利用資源，機能性，動物行動

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

ウシ・ヤギ・ヒツジなどの反芻家畜は4つの胃を持っています。この特殊な消化機構により、我々が利用できない牧草などの繊維質を消化・吸収し、乳・肉・毛皮などに変えてくれます。また、ニワトリは我々の食に欠かせない卵・肉を生産してくれます。しかしながら、集約化が進みすぎた結果、環境への負荷が問題となっています。そこで、廃棄に困っている農林水産残渣などの未利用資源を飼料として積極的に活用することで、地域循環型・持続型畜産の確立を目指しています。

✉ nakagawa.t@ses.usp.ac.jp



住田 卓也

SUMITA Takuya

環境科学部生物資源管理学科 講師

**専門分野**：植物病理学

**キーワード**：植物病原菌，拮抗微生物，微生物的防除，病原性発現機構，病原性関連遺伝子

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

植物病原菌に対する拮抗微生物は、環境負荷の小さい持続的な作物病害の防除のために重要な資源の一つと考えられます。このような微生物の作用メカニズムの解明に向けて、研究を行っています。現在、病原菌に寄生する菌類についての解析に取り組んでいます。その他に、植物病原菌の感染メカニズムについても研究を行っています。

✉ sumita.t@ses.usp.ac.jp





**専門分野**：林政学，農業経済学

**キーワード**：鳥獣被害対策，農山村，地域振興，地域資源管理

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

私は、鳥獣被害の研究に取り組んでいます。鳥獣害とは、イノシシやシカなどの野生動物による農作物被害をはじめとした、生活被害、人身被害、精神被害などの人間と野生動物との軋轢のことを指します。鳥獣被害の根本的な解決には、農山村に暮らし人々の生活や仕事、農山村の活動など、農山村社会そのもののあり方を考えることが重要です。私の研究では、今後の農山村のあり方や、地域振興も見すえた鳥獣被害対策の構築に貢献することを目的としています。

✉ kato.e@ses.usp.ac.jp

# 工学部 材料科学科

バラチャンドラン ジャヤデワン Balachandran JEYADEVAN

工学部材料科学科 教授



**専門分野：**材料科学

**キーワード：**機能性ナノ材料，金属ナノ粒子，磁性ナノ粒子，導電性ナノ粒子・ナノワイヤ，触媒ナノ粒子

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

金属および合金ナノ材料合成技術、表面改質技術（金属、非酸化被覆膜）および分散技術開発を行っています。また、得られた金属ナノ材料の工学・医学応用を目指した基盤研究に取り組んでいます。例えば、プリントエレクトロニクス開発を目指した銀ナノ粒子分散インクの開発や透明電極代替材料および熱伝導材料としての銀ナノワイヤの開発において産学間で連携し取り組んでいます。

【例1】無機材料合成、表面処理、分散液作製などに関する技術協力・アドバイスが可能です。

【例2】無機ナノ材料の物質同定、表面および形状解析などの分析において支援、アドバイスが可能です。

【例3】産業廃棄物質のリサイクル技術開発に関するアドバイスが可能です。

✉ jeyadevan.b@mat.usp.ac.jp



松岡 純 MATSUOKA Jun

工学部材料科学科 教授



**専門分野：**無機材料科学

**キーワード：**ガラス，高温物性，破壊，電子部品，セラミックス

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

ガラスは様々な元素を溶かし込める性質を持ち、各元素の比率を変えることで特性を制御できるため、一台の携帯端末には30種以上のガラスが使われています。そこで「知の探究と具象化」をモットーに、高温で融けているガラスの性質と、ガラスがなぜ割れるかを、ガラス構造と関連づけて研究しています。その内容には20世紀の物理学では解明できなかった「ランダム系」、「非平衡」、「協同現象」、「表面」というキーワードが関連し、また、元素を変えると性質がどう変わるかは化学の眼で考えることが必要です。基礎的だが社会に役立つ研究として、幾つもの会社と共同研究などを行っています。

✉ matsuoka.j@mat.usp.ac.jp



徳満 勝久 TOKUMITSU Katsuhisa

工学部材料科学科 教授



**専門分野**：高分子材料，プラスチック成形加工，複合材料

**キーワード**：高分子物性，レオロジー，成形加工，劣化と耐久性，高分子ブレンド

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

私たちの身の回りには、多くのプラスチック製品が使われていますが、それらはドロドロに溶かしてから型に流して成形する”という方法をとっています。私たちの研究は、その「流れ（粘性）」や「硬さ（弾性）」などのプラスチック製品の物性を、自由にコントロールするための基礎研究です。また、これからの循環型社会を目指すためには、プラスチックのリサイクル技術が重要であり、そのための取組を学生主体の近江楽座チーム「廃棄物バスターズ」で実施しています。

【主たるテーマ】セルロースナノファイバーを用いた革新的軽量化部材の開発（滋賀県と共同研究）／ポリシランを用いた各種高分子の融着特性向上化研究（民間企業と共同研究）など他多数

✉ ktokumit@mat.usp.ac.jp



奥 健夫 OKU Takeo

工学部材料科学科 教授



**専門分野**：エネルギー材料科学

**キーワード**：光，エネルギー，ペロブスカイト，太陽電池，原子配列

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

従来のシリコン系太陽電池に代わる、安価で環境にも配慮した環境調和型次世代太陽電池材料の研究開発を行っています。高効率発電を目指すとともに、その原子配列・微細構造や発電機構を調べています。具体的には、ペロブスカイト化合物・ポリシラン・球状シリコン・酸化チタン・フラーレンなどのナノ構造を用いて、新しいタイプの太陽電池デバイス材料の研究開発を進めています。太陽電池材料等に関して、地域企業様との共同研究も実施させていただいております。

✉ oku@mat.usp.ac.jp



金岡 鐘局 KANAOKA Shokyoku

工学部材料科学科 教授



**専門分野**：高分子合成，機能性高分子

**キーワード**：高分子，繊維，機能性材料，分岐ポリマー，反応制御

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

プラスチック、繊維などの高分子材料は、無機材料との高度な複合化により、さらなる高機能材料に向けた開発が行われています。また、持続可能な開発の観点から、従来の大量生産・大量消費ではなく、高度な機能を有する材料を必要なだけ高効率で作ることが重要です。そこで、高度に制御された重合反応を用いて新しい機能性高分子材料を作り出す研究をしています。最新の機能性高分子材料、高分子材料の設計・合成の基礎に関する講演、ご相談を受けることが可能です。

✉ kanaoka.s@mat.usp.ac.jp



北村 千寿 KITAMURA Chitoshi

工学部材料科学科 教授



**専門分野**：有機合成化学，構造有機化学

**キーワード**：有機半導体，機能性色素，多環式芳香族炭化水素

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

有機合成を通じて、炭素骨格を主体とする有機化合物の材料開発に取り組んでいます。亀の甲で知られる六角形のベンゼンを組み合わせた多環式芳香族炭化水素と呼ばれる分子の合成を行っています。色素・発光材料・有機半導体などへの光および電子機能性材料への応用を目指しています。

✉ kitamura.c@mat.usp.ac.jp

宮村 弘 MIYAMURA Hiroshi

工学部材料科学科 准教授



**専門分野**：金属材料学

**キーワード**：水素吸蔵合金，電池材料，結晶構造解析，窒化物，非平衡相

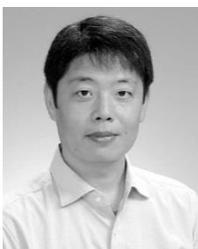
**地域連携・産学連携・地域活動について**：

エネルギー貯蔵媒体としての水素吸蔵合金の応用・開発および金属の表面処理について研究を行っています。滋賀県は太陽光などの自然エネルギー資源が豊富であり、現在の研究をこれらの有効利用につなげることができれば…と考えています。表面処理に関しては、とくに窒化物合成を中心に、電気化学と組み合わせた新規合成手法について検討しております。また「研究テーマ」というほどではないのですが、ネットワークコンピュータを使った機器制御や遠隔計測等も実践しており、これらの技術を総合したエネルギー貯蔵・利用のコンパクトなモデルを構築してみたいと考えています。

✉ miyamura@mat.usp.ac.jp

竹下 宏樹 TAKESHITA Hiroki

工学部材料科学科 准教授



**専門分野**：高分子構造，高分子物性

**キーワード**：プラスチック，高分子ブレンド，結晶性高分子，液晶，ゲル

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

プラスチック、繊維、ゴムをはじめとする高分子材料は、化学的に同じ成分から構成されていても、かけられた熱の履歴や成形方法により性質が大きく変化する特徴を持っています。また、身のまわりにある高分子材料は単一の成分から成るものは少なく、複数種類の高分子を巧みに組み合わせることで高度な性能や機能を発揮しています。私は、高分子材料のミクロな構造をナノメートルからミリメートルの幅広い範囲で制御することにより、新たな特徴を持つ材料を目指しています。

プラスチック、繊維、ゴム等の高分子材料の材料選択や成形加工について相談に乗ることが可能です。

✉ takeshita.hi@mat.usp.ac.jp

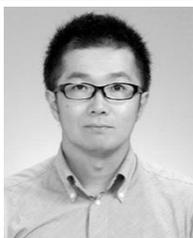


**専門分野**：機能物性化学，エネルギー関連化学

**キーワード**：プラズモン，金-銀ナノ粒子，フラーレン，有機薄膜太陽電池，光触媒

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

光エネルギーを効率よく活用するための材料開発を化学の立場から進めています。特に、「光エネルギーを濃縮する金-銀ナノ構造の開発と高感度分光・有機薄膜太陽電池・光触媒への応用」「有機半導体としてのフラーレン誘導体・ポリチオフェン膜の開発」に関する研究を推進しています。これらの研究シーズをもとに、学生による起業プランニングへの協力や、地域企業様との共同研究・連携を行ってきました。また、再生可能エネルギーを活用した持続可能な農業のあり方にも強い興味を持っており、関連する勉強会やワークショップを実施しています。以上の研究や活動に関連するご相談をお受けすることができます。  
 ✉ akiyama.t@mat.usp.ac.jp



**専門分野**：高分子界面科学

**キーワード**：微粒子，表面界面，天然高分子，マイクロカプセル，金属イオン捕集

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

私の専門分野は「高分子界面科学」です。材料としては高分子を対象とし、現象としては材料の表面界面で起こる出来事を対象とし、研究を行っています。主な研究対象はナノメートルからミリメートルの微粒子です。最近では、キチン・キトサンなど天然由来多糖の微粒子に興味を持っています。

「微粒子材料の設計」「材料の表面処理」「水溶液からの物質吸着除去」などの話題について、素材の選び方・作り方からアイデア出しまで、企業の方のご相談に乗った経験があります。

✉ tanimoto@mat.usp.ac.jp



**専門分野**：構造有機化学

**キーワード**：有機合成，芳香族化合物，複素芳香族化合物，超分子材料，蛍光材料

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

芳香環が連結および縮合した有機化合物は、有機 EL や太陽電池などのデバイスの材料として、私たちの身の回りに偏在しています。デバイスの性能を向上させるには、優れた有機材料を作ることが不可欠です。

望みの有機化合物を思い描くことができても、実際に作ることができなければ、絵に描いた餅です。精密有機合成という手法を駆使して有機化合物を作り、その構造や性質を調べて、材料設計に有用な情報を導き出すという研究に従事しています。その経験から、どのような化合物が所望の性質をもつか、またどのように化合物を作ればよいか等の疑問に支援ができます。

✉ kato.s@mat.usp.ac.jp



山田 明寛

YAMADA Akihiro

工学部材料科学科(兼 ガラス工学研究センター) 准教授



**専門分野**：ガラスおよび融液の科学，マグマの科学，惑星内部物質科学，高圧物質科学  
**キーワード**：ガラス・融液の構造，高温高圧，X線・中性子線分析

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

ガラスにはその用途に合わせて様々な種類が存在します。ガラスの性質には、その原子レベルでの構造が深く関わっています。「割れにくい」ガラスはどのような構造をもつのか、またそれに力が加えられた場合どのような構造変化が起こるか等、ガラスの様々な性質について、学内の研究室はもちろんのこと、県内外の大学、研究施設およびガラス関連会社と共同して取り組んでいます。

✉ yamada.ak@mat.usp.ac.jp

鈴木 厚志

SUZUKI Atsushi

工学部材料科学科 講師



**専門分野**：エネルギー材料科学

**キーワード**：太陽電池，エネルギー変換材料，第一原理計算，量子コンピューター

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

革新的性能を有する環境調和型太陽電池の開発が求められています。我々は再生可能エネルギーに関連する環境調和型次世代太陽電池の研究・開発を行っています。第一原理計算を用いてペロブスカイト系太陽電池の材料設計を行い、光起電力特性評価、表面形態観察や結晶構造解析を行いながら性能向上と実用化を目指しています。地域への分散型再生可能エネルギーの普及と太陽光発電システムの協力支援を行い、新しい地域モデルを創造し、地域の活性化を目指しています。県内高校の高大連携による講義・実験を行いながら、太陽電池の面白さを広めています。

✉ suzuki@mat.usp.ac.jp

竹原 宗範

TAKEHARA Munenori

工学部材料科学科 講師



**専門分野**：応用微生物学，生物有機化学

**キーワード**：発酵，ペプチド，酵素，脂質，生体機能材料

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

生物由来の機能性有機材料（ペプチド、酵素、脂質など）の生産、構造解析、また機能性の評価と改変を行っています。

これまで、滋賀県下の土壌・水系に生息する微生物から発酵法により生産したアミノ酸ポリマーが、優れた抗菌活性や水質浄化能を示すことを明らかにしました。また、自然環境に負荷を与えるような種々の合成エステル類に対して、高い分解能を示す微生物酵素を見出し、その触媒メカニズムを新たに提案してきました。これら「生体分子が関わる現象を化学の言葉で説明する」ことを目指した研究・教育を実践するとともに、生命現象に基づくモノづくりに貢献したいと考えています。

✉ takehara@mat.usp.ac.jp



**専門分野**：高分子精密合成，ゲル化学

**キーワード**：高分子ゲル，高分子合成，精密ラジカル重合，機能性高分子，刺激応答性材料

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

機能性高分子の合成、特に外部刺激に応答する高分子ゲルに関する化学を専門としています。繊維やプラスチックに代表される様々な高分子材料をさらに高機能化するために新しい構造や機能を持つ高分子を創り出すことが重要です。我々は精密重合技術を駆使して、そのような「新しい高分子材料の創出」を目指しています。そのため、様々な高分子材料の合成の仕方や性質の評価についてご相談に乗ることができます。

✉ ida.s@mat.usp.ac.jp



**専門分野**：無機化学

**キーワード**：ゾルーゲル，液相プロセス，有機-無機ハイブリッド，金属酸化物，カーボンドット

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

カーボンドットと呼ばれる新規蛍光材料を用いた固体蛍光材料や、金属酸化物のナノ結晶について研究しています。溶液プロセスで合成することで、低コストかつ機能性に優れた材料の開発を行っています。応用例として、ディスプレイや固体レーザなどの蛍光材料、メモリや圧電素子などの強誘電体材料、酸化物の磁性材料などが挙げられます。これらの材料開発に関する共同研究や技術相談を行っています。

また、無機化学の溶液プロセスについて、特にゾルーゲル反応の基礎から応用までお話しすることができます。実際に県内企業へのシーズ発表やミニ講義、県内高校への高大連携講座などの活動を行っています。

✉ suzuki.ka@mat.usp.ac.jp



# 工学部 機械システム工学科

安田 寿彦 YASUDA Toshihiko

工学部機械システム工学科 教授



**専門分野：**メカトロニクス

**キーワード：**福祉ロボット, 早期移動体験用電動移動支援機器, 自立支援型移乗介助機器・システム

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

ハンディキャップのために自力移動ができない子ども達に、1才になる前から自力移動を実現する様々な電動移動支援機器を開発しています。移動支援機器を滋賀県のリハビリテーション施設で使用し、子ども達の心身の発達を支援しています。さらに、滋賀県の理学療法士の方々と Kids Loco Project を発足させて、製作ワークショップなどを開催して、電動移動支援機器の普及活動も実施してきました。福祉機器メーカーとの共同研究を経て、2020年10月に低年齢児用の移動支援機器が市販化されました。

✉ yasuda@mech.usp.ac.jp



南川 久人 MINAGAWA Hisato

工学部機械システム工学科 教授



**専門分野：**流体工学、混相流工学

**キーワード：**ファインバブル, マイクロバブル, 気液二相流, 水質浄化, 水耕栽培

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

微細な気泡（ファインバブル, マイクロバブル）を有効に利用して、琵琶湖など湖沼やダム湖の水質浄化、環境負荷の小さい洗浄技術や、水耕栽培による農業について研究しています。また、微細な気泡をより効率的に作り出す方法も開発しています。琵琶湖の深水区は地球温暖化の影響で全層循環が不十分となっていて、今後酸欠の危機です。酸欠によって湖底の生物はもちろん、リンや窒素などが水中に戻り、富栄養化が進む危険性もはらんでいます。マイクロバブルをうまく深水区に送り込めれば、この危機に対処できる可能性があり、そのような技術の開発も手掛けています。

✉ minagawa@mech.usp.ac.jp





**専門分野：**ライフサイクル工学

**キーワード：**ライフサイクル設計，環境配慮型製品，メンテナンス，設計・製造パラメータのロバスト化

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

自動車、家電製品、スマートフォンなど工場で生産される製品（一般に工業製品と言います）は、使い始めてから年月が経過すると壊れて動かなくなったり、さらに魅力的な新製品が発売されたりします。このとき、今現在使用している製品を廃棄するのではなく、製品そのものをリユース・リサイクル（中古車、リユース・リサイクルショップ）したり、廃棄した製品に組み込まれている様々な部品をリユース・リサイクルしたりすると、地球資源とエネルギーの消費（環境負荷）が抑えられます。私は、工業製品をどのように設計・製造・リユース・リサイクルすれば環境負荷が低減できるかをテーマに研究を行っています。

✉ okumura@mech.usp.ac.jp



**専門分野：**数学

**キーワード：**偏微分方程式論，スペクトル・散乱理論

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

波動伝播に対する数学的散乱理論を研究テーマとしています(とりわけ最近では透過・屈折を伴う波動伝播に興味・関心を持っています)。数学的散乱理論とは、原子や障害物など(散乱体という)に向けて電子や音波を入射したときに散乱体によって発生する波(散乱波)の様子から散乱体を研究する物理学における散乱理論の数学的定式化です。研究対象の基となる現象は、日常の出来事で例えることができます。また、研究手法の根幹をなすのが微積分です。以上のような研究を進めてきた経験に基づいて、微積分の初歩を用いて、日常で体感したことがある現象(特に熱伝導と波動伝播)を数学的に語る機会があればと考えています。

✉ kadowaki.m@mech.usp.ac.jp



**専門分野：**振動工学，計算力学

**キーワード：**CAE，振動抑制，共振，最適設計，軽量化設計

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

機械の高速化や軽量化に伴い、部品・構造の強度や剛性の不足、振動など問題が発生しやすくなっています。これらの問題を対処するには、実験的手法に加え、近年発達してきた計算機シミュレーションによる設計の検討、さらに最適設計が有効です。

現在まで主に機械部品・構造の最適設計に関する研究をしてきました。設計対象とする物体の使用状況をもとに数値モデルを作成し、計算機による数値シミュレーションを行ってから、強度・剛性の最大化、軽量化、抑振などのための形状最適化を行います。振動や剛性・強度不足の原因分析や、最適設計についてアドバイス・ご協力できます。

✉ wu.z@mech.usp.ac.jp



田邊 裕貴

TANABE Hirotaka

工学部機械システム工学科 教授



**専門分野：**材料強度学

**キーワード：**破壊、疲労、摩耗、表面処理、非破壊検査

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

私の研究は、軽くて丈夫な機械をつくるために必要となる「表面処理」と、長期にわたり安全に機械を使用するために必要となる「非破壊検査」の2つのテーマに分類されます。これらのテーマを中心に、産官学連携による共同研究、特に県内企業との共同研究を、これまで以上に積極的に展開したいと考えています。また、上記のテーマは社会インフラの維持管理にも必要不可欠です。皆さんの暮らしの安心と安全にも貢献したいと考えています。

現在、関西の中小企業の異業種交流グループに参加しております。企業同士や企業と大学をつなぐ窓口としてお役に立ちたいと思っております。

✉ tanabe@mech.usp.ac.jp



山野 光裕

YAMANO Mitsuhiro

工学部機械システム工学科 准教授



**専門分野：**ロボット工学

**キーワード：**ソフトロボット、ロボット制御、ロボットアーム、ロボットハンド、人間型ロボット、脚ロボット、ロボットを活用した教育、メカトロニクス

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

硬軟切替ができる材料を用いたロボットハンド等の研究を行っています。これまで、腕型、脚型、人型のロボットの研究も行ってきました。また、教育目的のロボットコンテストの企画や運営の経験もあります。新素材へのロボットへの応用にご興味のある方、製造現場、オフィス等へのロボット新規導入をご検討の方、ロボットを活用したプログラミング等の教育をご検討の方のご相談に応じることができます。

✉ yamano.m@mech.usp.ac.jp



橋本 宣慶

HASHIMOTO Nobuyoshi

工学部機械システム工学科 准教授



**専門分野：**生産加工学

**キーワード：**教育訓練システム、技能伝承、バーチャルリアリティ、ヒューマンインタフェース

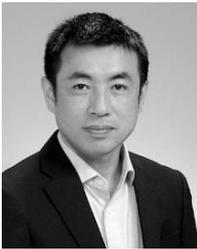
**地域連携・産学連携・地域活動について：**

ものづくりの現場で働く人が行う作業にはコツやカンが必要ですが、それを新しく働く人に教えても、なかなか正しく伝えることはできません。そのため、コツやカンを簡単に覚えらるる教育訓練システムを開発しています。このシステムは、バーチャルリアリティ技術を使うことで、危険な作業であっても実際と同じ感覚で安全に作業を体験できます。また、作業の様子をコンピュータが解析して、もっと上手くなるためのアドバイスをすることもできます。

現在、旋盤作業、溶接作業、歯科診療作業のシステムを開発していますが、人が行う作業であれば看護や福祉等への応用も可能です。

✉ hashimoto.n@mech.usp.ac.jp





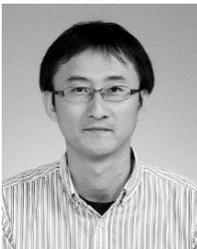
**専門分野：**熱工学，内燃機関

**キーワード：**ディーゼルエンジン，ガスエンジン，燃料，燃焼

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

持続可能なエネルギーシステムの構築が求められています。私は、従来の石油系燃料に加えて、バイオ燃料やガス燃料など様々な燃料を用いた、高効率でクリーンなエンジンシステムの研究を行っています。地域のエネルギー資源やエネルギーのニーズに適したシステムの開発に貢献することができます。

✉ kawasaki@mech.usp.ac.jp



**専門分野：**流体力学

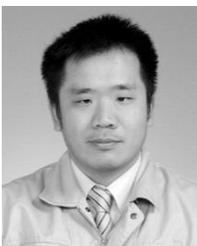
**キーワード：**物体周りの流れ，流体抵抗低減，流体騒音低減，風洞実験，数値流体解析

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

流体（水や空気）の流れと密接に関わる機械の性能を向上させる研究をしています。例えば、風洞を使った実験やコンピュータを使った計算により、風車などに使われる翼の性能が良くなる形を調べたり、船が作る波による抵抗を減らしたり、また、風による騒音を減らしたり、といった研究をしています。

現在、流体に関係した機器の性能向上について地元企業との共同研究も実施しており、今後も私の専門分野である流体力学を通して、積極的に地域の発展に携わりたいと考えております。また、高校生への講義や実験を通して、流体力学への興味を少しでも伝えていければと考えております。

✉ tkyasuda@mech.usp.ac.jp



**専門分野：**機械力学

**キーワード：**固有振動，自励振動，連成振動，騒音

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

回転する円板（ディスク）の両面から摩擦材（パッド）を挟み込むように押し付けて制動するディスクブレーキは、安定した効きを発揮するブレーキとして、自動車や産業機械などに幅広く使われています。その一方で、ブレーキをかけたときに、キーという甲高い騒音、鳴きが発生することがあります。ブレーキの鳴きは、使用者だけではなく、周囲にとっても不快です。鳴きが発生するかしないか、音の高さ、音の大きさは、制動時にパッドをディスクに押し付ける力の大きさによって変化します。ブレーキの鳴きが発生するメカニズムを明らかにし、有効な鳴き対策を提案することを目指しています。

✉ oura@mech.usp.ac.jp



和泉 遊以 IZUMI Yui

工学部機械システム工学科 准教授



**専門分野**：材料強度学，非破壊検査工学

**キーワード**：破壊，疲労，非破壊検査，赤外線サーモグラフィ法，維持管理

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

赤外線サーモグラフィを用いた欠陥の非破壊検査技術に関する研究を行っています。本技術は、遠隔、非接触、面での測定が可能のため、短時間かつ低コストで検査を行える方法として期待されています。研究対象は小型の部品から橋梁などの大型構造物まで幅広く、企業の方との共同研究も積極的に行っております。“現場で使える画期的な検査技術”を開発するのが研究のモチベーションです。お困りのことがあれば、まずにご相談ください。

✉ izumi.yu@mech.usp.ac.jp



西岡 靖貴 NISHIOKA Yasutaka

工学部機械システム工学科 講師



**専門分野**：ソフトメカニズム，智能機械学

**キーワード**：ソフトアクチュエータ，空気圧システム，メカトロニクス，福祉工学，生体計測

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

空気圧で動くやわらかいロボットの研究を主として実施しています。モータとは異なった、ゴムやプラスチックフィルムで構成されるソフトアクチュエータ（例えば人工筋肉の一種）の原理・特徴、およびその作り方について解説・実演などができます。現在はソフトアクチュエータを福祉機器へ応用する研究についても実施しています。また、近年のモノづくりにおける 3D プリンタの活用についても協力できます。

✉ nishioka.y@mech.usp.ac.jp



田中 昂 TANAKA Takashi

工学部機械システム工学科 講師



**専門分野**：振動工学

**キーワード**：振動，超音波，検査，モニタリング

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

振動計測による機械やインフラ構造物の非破壊検査、モニタリングシステムに関する研究を行っています。特に、超音波を用いて微小な損傷（き裂や剥離など）の検出や締結部の健全性評価を実現する汎用的な検査技術を開発しています。振動や音のモニタリングによる異常検知技術を通して、地域の問題解決に貢献できればと考えています。

✉ tanaka.ta@mech.usp.ac.jp



# 工学部 電子システム工学科

乾 義尚 INUI Yoshitaka

工学部電子システム工学科 教授



**専門分野：**電力工学

**キーワード：**電力変換・制御，電力貯蔵，エネルギーシステム，自然エネルギー

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

地球温暖化等の地球環境問題と化石燃料の枯渇等のエネルギー問題を解決するために、電気エネルギーの発生・変換・輸送・貯蔵技術のさらなる高効率化と自然エネルギーの有効利用が現在強く望まれています。このことを考慮して、私はパワーエレクトロニクス技術を用いた電力制御、リチウムイオン電池の動作特性シミュレーション、太陽光発電の電力系統連系制御、家庭用燃料電池の運用シミュレーション等の研究に取り組んでいます。私の研究は、地域に依存しないものであり、地域活動を直接の目的としているわけではありませんが、上記の研究分野での産学連携等を通じて地域貢献ができればと考えています。

✉ inui.y@e.usp.ac.jp



作田 健 SAKUTA Ken

工学部電子システム工学科 教授



**専門分野：**計測工学

**キーワード：**磁気計測，非破壊，微小信号，信号処理

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

安全・安心な社会・街づくりがますます大事になってきています。そのためには、まず測ることが第一歩です。測ることについて、特に微弱な磁気の測定に取り組んでいます。ものに紛れ込んだ異物、陰に隠れた異物や傷なども、磁気の手で見つけられることがあります。また、内部形状を確認できるものもあります。このような現象の利用、またそのために必要な信号処理や雑音処理などの計測技術についてお話できます。こうした技術により、直接あるいはものを通して、地域への安全・安心の提供を目指しています。

✉ sakuta.k@e.usp.ac.jp



柳澤 淳一 YANAGISAWA Junichi

工学部電子システム工学科 教授



**専門分野**：半導体プロセス工学，イオンビーム工学

**キーワード**：半導体，デバイス，超微細加工，ナノテクノロジー，イオンビームプロセス

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

これまで半導体分野で開発されてきた超微細加工プロセス（ナノテクノロジー）の中で、特にイオンビームを用いた加工方法により、固体試料表面へのイオン種の堆積（薄膜形成）、ターゲット原子のスパッタ（表面加工）、固体内部へのイオンの注入（表面改質）、などを利用した新しい材料合成や加工方法の開発、集束化したイオンビームを用いてこのような素過程を局所的に起こすことによる局所微細加工を行うプロセスなどの研究を行います。さらに光・電子線リソグラフィ技術と併せ、これらの技術を工学、環境、さらにはバイオ関係など、より広い分野において新しく応用・展開することを目指します。

✉ yanagisawa.j@e.usp.ac.jp



岸根 桂路 KISHINE Keiji

工学部電子システム工学科 教授



**専門分野**：集積システム・通信方式

**キーワード**：集回路，通信システム機器・部品，センサー

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

企業の研究所で、光通信システム用部品の研究・開発に携わっておりました。この経験を活かし、大学の研究室では、次世代高速通信システムの高度化や、高機能スマートセンサーシステム実現に向けて、部品レベルからシステムレベルまで幅広く研究・開発を行っています。高周波回路設計から評価まで一連の作業を研究室で実施できます。また、組込み系 FPGA ボードやマイコンボードをベースに生体センサーシステム等の構築も手掛けています。

これらの技術を切り出して、様々な応用展開先を開拓中ですので、お声をかけていただければと思います。

✉ kishine.k@e.usp.ac.jp



酒井 道 SAKAI Osamu

工学部電子システム工学科 教授



**専門分野**：メタマテリアル科学，ネットワーク科学，プラズマ理工学

**キーワード**：メタマテリアル，電磁波，複雑ネットワーク，プラズマ，スマート化

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

マイクロ波から光波の領域の特殊電磁波媒質の設計と通信技術応用、ならびに産業応用プラズマから観光地の観光スポット分布に至るまでの種々の多要素構造のネットワーク解析といった、次世代の情報通信技術を研究対象としています。多様な地域課題は研究対象としてもフロンティアといえ、研究シーズの幅広い応用展開を図っています。

✉ sakai.o@e.usp.ac.jp





**専門分野：**人工知能，データサイエンス

**キーワード：**意思決定支援，知識創発，データマイニング，テキストマイニング，情報可視化

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

世の中では、多様かつ膨大なデータが蓄積される一方、それらを分析するための環境の不足、また分析する人間のスキル不足により、データが有効に活用されていない現状があります。そこで、さまざまな目的に対応できる汎用型データ分析環境の開発、ならびにデータ分析スキルの獲得を支援する環境を構築しています。

複数のデータ分析ツールをまとめて扱うことができる統合環境 TETDM を開発しています (<http://tetdm.jp>)。データ分析のプロセスは、「データ収集」「データ分析」「分析結果の収集（思考の発散）」「知識創発（思考の収束）」の4つからなり、このそれぞれを支援することで、分析結果を単に集めるのではなく、得た結果を有効に活用できるシナリオの構築までを支援します。

✉ [sunayama.w@e.usp.ac.jp](mailto:sunayama.w@e.usp.ac.jp)



**専門分野：**デジタル信号処理

**キーワード：**画像信号処理，深度画像，加速度センサー，3D復元，行動解析

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

生活に役立つデジタル信号処理技術の開発を行っています。これまで研究してきたセンサによる人間の基本的な行動解析、深度画像による物体の形状・体積推定、動画像の認識・分類といった技術をベースに、まだ十分IT化がなされていない産業・看護・農業・観光といった分野への信号処理技術適用を進めています。例えば嚙下機能評価システムに必要とされる要素技術開発や、厨房での作業負担を自動的に計測するシステムの開発、あるいはAIを利用した生産ラインの機器モニタ等に取り組んでいます。今までIoTやAIに興味があっても、なかなか取り組めなかった方々へのサポートを実施してまいります。

✉ [miyagi.s@usp.ac.jp](mailto:miyagi.s@usp.ac.jp)



**専門分野：**超音波エレクトロニクス，熱音響工学

**キーワード：**音響，エネルギー，超音波，熱音響

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

『熱音響』、『超音波エレクトロニクス』、『エネルギー・環境』3つのキーワードを基に、『つかえる技術』をコンセプトに研究しています。未利用熱エネルギー（廃熱や太陽熱など）を効率よく利用することを研究しております。また、音響センサー、超音波センサーの開発、応用システムの開発も行っております。[shin1sakamoto.com](http://shin1sakamoto.com) も参照ください。

✉ [sakamoto.s@e.usp.ac.jp](mailto:sakamoto.s@e.usp.ac.jp)





専門分野：光物性

キーワード：非線形光学，ナノ結晶作製，物性評価

地域連携・産学連携・地域活動について：

日常生活に欠かせない光はその高速性より近年は新奇技術への応用が進められています。光を半導体へ入射すると極度の波が生じますが、これが乱されることなく全体に広がる程品質の高い微小構造を作ることによって光応答速度や発光効率の向上が実現できることを示してきました。このような材料の光学特性を評価するために非線形光学効果を用いた分光実験も行っており、ナノレベルの高空間分解分光法と併せて相談いただくことは可能で、共同研究等もできればよいと考えています。

✉ ichimiya.m@e.usp.ac.jp



専門分野：集積回路，電子デバイス

キーワード：集積回路，通信，センサー

地域連携・産学連携・地域活動について：

CMOS 集積回路を中心に、集積デバイスおよびそれを用いたシステムの研究を行なっています。大規模なシステムではなく、センサーノードや通信のインターフェースなど小規模ながら重要な回路やデバイスをターゲットに、通信向けの高周波アナログ回路技術や低消費電力のための回路設計技術から、マイコンやセンサーを用いたシステムの設計まで様々なテーマを手掛けています。単に既存の回路の改良ではなく、他分野との連携を通して新たなシステムやアプリケーションの創出を目指します。

✉ tsuchiya.a@e.usp.ac.jp



専門分野：画像工学，システム情報科学

キーワード：画像工学，画像計測，システム工学，農林水産業，実応用

地域連携・産学連携・地域活動について：

「現場で使えるモノ」を心掛け、画像計測をベースとしたシステムを開発し、水産業や農業、美容、交通インフラなどへの実応用に取り組んでいます。例えば、海底を撮影した動画を用いたホタテガイ自動計測システム、新幹線の線路高架上の降雪検知、ドローンで撮影された空撮画像からの干潟地形推定など、様々な分野での目的や条件に合わせて現場も含めてシステムとして設計し、開発に取り組んでいます。

✉ enomoto.k@e.usp.ac.jp





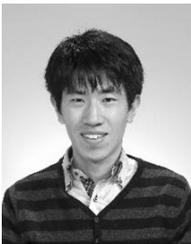
**専門分野**：プラズマ電磁流体力学，電気機器学

**キーワード**：電力遮断，放電，プラズマ，数値シミュレーション

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

電流が流れれば熱が発生し、その熱によって空気の流れが生じます。このような人の目では見られない電流・空気・熱の流れを、数値シミュレーションでは人にとってわかり易い可視化された情報にすることができます。現在は、プラズマ・放電現象の数値シミュレーションを利用して、確実に、素早く電流を切る開閉装置の開発に向けた研究に取り組んでいます。数値シミュレーションを利用した製品設計や、数値解析技術のご相談・授業等でご協力できると考えています。

✉ hirayama.s@e.usp.ac.jp



**専門分野**：集積回路設計、無線システム

**キーワード**：集積回路，無線システム，センサネットワーク

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

一人暮らしのお年寄りや子どもの安全・安心な生活の実現、工業・農業分野等での産業分野における安全かつ効率的な生産性の確保が求められています。これらの要望や課題に応えるべく、センサネットワークを用いた回路システムの研究を行っています。回路の技術を用いて、これまでよりも低消費電力でかつ高機能なシステムの構築を目指しています。また、無線技術によるセンサデータの無線伝送や無線センシングなど、新しい形態のセンサネットワーク構築を試みています。地域の医療、産業、観光業に貢献できる技術の創出を行っていきます。

✉ inoue.t@e.usp.ac.jp



工学部

# ガラス工学研究センター

出島 一仁 DEJIMA Kazuhito

工学部 ガラス工学研究センター 講師



**専門分野：**熱工学

**キーワード：**伝熱工学，熱流体工学，計測技術，MEMS

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

機械の中で常に問題となる熱に関する研究を行っています。特に、微細加工技術の一種である MEMS 技術を用いて温度・熱流束センサーを製作し、高速かつ局所的な熱の移動を捉える技術の開発を行っています。MEMS 技術を用いることで、従来のセンサーでは見えなかったものが見えてくる可能性があります。本技術にご興味があれば、ご相談いただければと存じます。

✉ [dejima.k@mech.usp.ac.jp](mailto:dejima.k@mech.usp.ac.jp)



# 人間文化学部 地域文化学科

市川 秀之 ICHIKAWA Hideyuki

人間文化学部地域文化学科 教授



**専門分野**：日本民俗学，博物館学

**キーワード**：水利用，当屋制，歴史民俗学

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

民俗学は地域の生活をフィールドワークによって調べる学問です。これまで集落内の広場や集落内を流れる水路の利用、地域における民俗の生成過程などを研究してきました。近年は伝統芸能をいかに伝えていくか、また地域の歴史や民俗をいかに叙述するかといった応用的な課題にも取り組んでいます。また各地にのこる民具や民俗の調査にも学生たちとともにかかわってきました。このような問題について課題のある地域については、ともに解決策を考えていきたいと思っています。

✉ hichikawa@shc.usp.ac.jp



亀井 若菜 KAMEI Wakana

人間文化学部地域文化学科 教授



**専門分野**：日本美術史

**キーワード**：日本美術史，絵巻，近江を描く絵，ジェンダー，女性像

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

絵画を中心に日本美術史を研究しています。中でも、中世の絵巻を主な研究対象とし、絵が何を表し訴えようとしているのかを、その絵が制作・享受された社会的文脈から考える、ということを行ってきました。特に関心があるのは、「女性を描く絵」や「土地を描く絵」です。

性差による表現に注目し、男女共同参画の趣旨に沿った講演を行ったり、中世絵画における近江の表現について、地域の歴史を美術から探るといった趣旨の講演を行ったりしています。

✉ kamei.w@shc.usp.ac.jp



京樂 真帆子 KYORAKU Mahoko

人間文化学部地域文化学科 教授



**専門分野**：日本史，ジェンダー史  
**キーワード**：平安京，都市社会史，女性史

✉ kyouraku@shc.usp.ac.jp



東 幸代 AZUMA Sachiyo

人間文化学部地域文化学科 教授



**専門分野**：日本近世史  
**キーワード**：江戸時代，古文書，琵琶湖舟運，漁業史，歴史地震

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

江戸時代の歴史を専門とし、滋賀県内に残る古文書を日常的に調査、整理、研究しています。その関係から、県・市・町の文化（財）に関する委員や、地域の歴史書を編さんする委員などを務めています。古文書から明らかになった研究成果は、機会があれば講演会などで地域の人々に伝えるようにしています。古文書の調査依頼があった場合、学生らとともに地域におもむくこともあります。

✉ sazuma@shc.usp.ac.jp



塚本 礼仁 TSUKAMOTO Reiji

人間文化学部地域文化学科 教授



**専門分野**：人文地理学  
**キーワード**：産地，特産物，フードシステム，地場産業

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

食料・食品や伝統的工芸品といった地域の特産物をつくる「産地」が研究対象です。ライバルの商品・産地との競争の中で、これらがどのような戦略で生き残ろうとしているのかを、現地調査で集めた情報から分析しています。

このような経験をもとに、専門である水産物・水産業については、現状評価のための調査事業などに参加しています。

✉ rtsukamoto@shc.usp.ac.jp





**専門分野：**建築史，保存修景計画

**キーワード：**伝統的建造物の保存，町なみ保存，文化的景観の保全，文化遺産教育

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

- ・伝統的建造物の保存：伝統的建造物を調査し、その価値を評価することで、保存・活用に関する活動を支援します。
- ・町なみ保存：伝統的建造物で構成される町なみ・集落を調査し、その価値を評価することで、保存・活用に関する活動を支援します。
- ・文化的景観の保全：人と自然との相互作用によって生み出された景観（文化的景観）を調査し、その価値を評価することで、保全・活用に関する活動を支援します。
- ・文化遺産教育：伝統的建造物や町なみ、文化的景観といった文化遺産を地域の人々に広く知ってもらうための教育活動（小・中・高の学校教育や生涯学習）を支援します。

✉ sishikawa@shc.usp.ac.jp



**専門分野：**地域計画学

**キーワード：**都市農村における景観まちづくり，地域資源管理

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

滋賀県内を主たるフィールドとして、景観マネジメントやコミュニティ再編をテーマとした調査研究を進めています。

なお、一連の分析考察においては、ヒアリング調査を重視しながら、ワークショップ手法などのアクションリサーチ手法も積極的に活用しています。

地域コミュニティ自らが課題対処し、まちづくりが実行できるような支援システムの構築に向けて、自身の調査研究が活用できないか日々模索しています。

✉ hagihara.ka@shc.usp.ac.jp



**専門分野：**社会人類学，地域研究

**キーワード：**東アジアにおける女性の移動，結婚，家族，再生産労働，華人

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

東アジア、東南アジアでは、人の出産や養育、家事、介護に関わる再生産労働が国家間で分業されるようになっていきます。私は、台湾とインドネシアという、再生産労働力を外部から導入せざるを得ない社会と、女性を送り出し女性からの送金に依存せざるを得ない社会の双方で、家族や結婚、ジェンダー関係の変化と、2世代目の子供への教育支援について研究してきました。

これまでの経験をもとに、国際結婚の配偶者や子供たちへの支援について情報提供が可能です。

✉ yokota.s@shc.usp.ac.jp



**専門分野**：社会学

**キーワード**：歴史社会学，文化社会学，社会問題，娯楽，観光

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

現在は、COVID-19 の被害をふまえ、滋賀県における(1)飲食文化と地域の居場所の関係を問い直すこと、(2)娯楽文化とは何かを根本から問い直し、それを擁護するための基盤を構築すること、(3)人々が自由に移動できることの重要性を観光文化の視点から捉え直すことに興味があります。

その他には、滋賀県が近江商人の地であることをふまえ、会社の歴史である「社史」を作るプロジェクトや、いじめと関連する「いじり」という社会問題についての研究を構想中です。

✉ sakurai.s@shc.usp.ac.jp



**専門分野**：考古学

**キーワード**：古墳時代，朝鮮三国時代，副葬品，渡来人，対外交流

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

私たちが暮らす地面の下には、多くの遺跡や遺物が眠っています。これらを発掘し、研究するのが考古学という学問です。私が研究対象とする古墳時代は、文字による記録がほとんど残されていない時代です。しかし、古墳をはじめとするさまざまな遺跡から、当時の社会の様子を示すたくさんの手がかりが出土します。中には、中国や朝鮮半島との遠い交流の痕跡も見つかります。私たちが暮らすこの地域には、かつてどんな人々が住み、どんな生活をして、どんな交流をもっていたのか。太古の歴史の中で地域が担った役割を明らかにすることで、人々が愛着をもって地域社会に関わるための土台づくりを目指します。

✉ kim.w@shc.usp.ac.jp



**専門分野**：東アジア国際関係史

**キーワード**：東アジア，歴史，国際関係

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

「東アジアの歴史の中の滋賀」前近代東アジアの国際関係について研究しています。滋賀が東アジアの国々とのどのような接点を持っていたのかについて、史実を発掘・紹介していきたいと思います。■朝鮮通信使および琉球謝恩使・慶賀使と滋賀：朝鮮通信使が滋賀県の中山道および朝鮮人街道を通ったことはよく知られています。朝鮮通信使と比べあまり知られていませんが、琉球の謝恩使・慶賀使も中山道、東海道を通って滋賀県を通過しています。『歴史家が案内する滋賀』（2021年4月刊行予定）でその概要を紹介しましたが、まだまだ十分に研究されていないため、今後も史料を発掘し、滋賀と東アジアの国々との関係を考えていきたいと思っています。

✉ kimura.k@shc.usp.ac.jp





**専門分野**：日本中世史

**キーワード**：惣村、荘園

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

主に中世村落の研究をしています。滋賀県下には、中世の地域社会のあり方を詳しく知ることのできる文書史料が多く残されています。それらの分析に基づく地域史の執筆や講演などといった方法で、地域連携を図ることができればと考えています。

✉ takagi.j@shc.usp.ac.jp

# 人間文化学部 生活デザイン学科

宮本 雅子 MIYAMOTO Masako

人間文化学部生活デザイン学科 教授



**専門分野：**居住環境

**キーワード：**照明，色彩，環境バリアフリー

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

超高齢社会に突入した今日、住環境についてはまだまだ改善が必要な点があります。その中でも主に視環境に着目した研究を行っています。高齢者・若齢者ともに快適な居住空間の条件、省エネルギーに貢献し、生活スタイルにあった住宅照明について検討することにより空間計画への応用が期待されます。また、公的機関との連携により視覚障がい者が安全に移動するためのバリアフリー環境についての研究を行っています。照明、色彩、バリアフリー環境の成果を応用したサイン等の設置・提案も進めています。

✉ miyamoto@shc.usp.ac.jp



印南 比呂志 INNAMI Hiroshi

人間文化学部生活デザイン学科 教授



**専門分野：**地域デザイン，職人研究，ソーシャルデザイン

**キーワード：**地域，職人，まちづくり，絶滅危惧，限界集落，道具，デザイン，工芸，イタリア，韓国

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

これまで、建築デザイン、地域計画、プロダクトデザインを専門として15年ほど民間のデザイン研究所で実務に関わってきました。大学での研究を始めてからは、国内、海外をフィールドに、ものづくりの歴史、絶滅が危惧される伝統技術、地域コミュニティなどの調査研究を進めています。現在は、高知県（四万十町）、北海道（東川町）、岡山県（総社市）、イタリア（サルディニア島）、韓国（加波島）、エストニア（パルヌ）などを拠点に研究室の活動を行っています。若い頃イタリア、フランスの大学で学んだ経験から、文化習慣の生活経験を生かして活動しています。

また、本学が進める学生の地域活動プログラム「近江楽座」の専門委員長として学生たちの地域活動をサポートしています。

✉ innamihiroshi@innami.com / hinnami@shc.usp.ac.jp



森下 あおい MORISHITA Aoi

人間文化学部生活デザイン学科 教授



専門分野：服飾デザイン，被服人間工学

キーワード：服飾，デザイン，テキスタイル，体形

地域連携・産学連携・地域活動について：

滋賀県には日本でも有数の織物産地があり、優れた着心地や美しい風合いを持っていることが特徴です。私は地域の風土から生まれたこれらの織物の固有の技術を調査し、服飾をはじめとして生活用品のデザインに取り組んでいます。これまで新たな用途を検討するためのプロジェクトや研究会を行い、マーケットから製造、販売までを通した流れを持つ滋賀ブランドの開発を目指してきました。これからも滋賀の繊維ならではのデザインの魅力を見出しながら、地域に根差した開発を様々な方と連携したいと思います。

✉ morishita@shc.usp.ac.jp



藤木 庸介 FUJIKI Yosuke

人間文化学部生活デザイン学科 教授



専門分野：建築設計，建築計画，都市計画

キーワード：少数民族，文化遺産観光，リビングヘリテージ

地域連携・産学連携・地域活動について：

人々の生活によって培われてきた地域に特有の居住文化は、その土地の気候風土や習俗習慣、あるいは地域産業といった様々な要素との結びつきにより形成されてきました。しかし近年、こうした地域に特有の居住文化は急速に失われつつあります。本研究室では、地域住民自らによる自律的な観光開発を手段とする事で行う、伝統的居住文化の維持・保全とその活用、ならびに、地域に根ざした住環境計画について、研究・提案を行っています。

✉ fujiki.y@shc.usp.ac.jp



横田 尚美 YOKOTA Naomi

人間文化学部生活デザイン学科 准教授



専門分野：服飾文化，西洋服装史

キーワード：服飾文化，ファッション，西洋服装史，衣生活，ファッション情報

地域連携・産学連携・地域活動について：

滋賀県内のある家から見つかった衣生活資料を調査しています。県内には、まだ貴重な昔の衣生活資料が眠っている可能性があります。蔵や屋根裏に忘れられている衣類があれば、その価値を調べるお手伝いをさせていただきます。また、県内の博物館で衣生活資料の展示のお手伝いもしています。現代の魅力的なファッションと結びつけることで、資料の価値を高める工夫もできます。それとともに、ファッションについての関心を正しく持ってもらう必要性を感じています。それについてもお手伝いもさせて頂けたらと考えています。

✉ yokota.n@shc.usp.ac.jp



山田 歩 YAMADA Ayumi

人間文化学部生活デザイン学科 准教授



**専門分野：**行動経済学、社会心理学、マーケティング

**キーワード：**ナッジ、広告コミュニケーション、生活者調査

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

「〇〇してください」や「〇〇禁止」などと呼びかけても、人はなかなか行動を変えてくれません。思い通りに動かない相手（消費者、ユーザー、住民、生活者）を無理なく自然に動かすにはどのように働きかけたらよいのでしょうか。研究室では、社会心理学や行動経済学などから得られる行動インサイトと、生活者調査から得られる生活者インサイトを組み合わせながら、「人を動かす」コミュニケーション手法を研究開発しています。最近の活動で言えば、「CO2 排出抑制」や「空き家バンクへの登録促進」などの人を動かす「仕掛けづくり」を地域の皆さまと進めています。

✉ ayumi.yamada@gmail.com



佐々木 一泰 SASAKI Kunihiro

人間文化学部生活デザイン学科 講師



**専門分野：**空間デザイン

**キーワード：**空間デザイン、建築設計、店舗設計、デザインブランディング

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

・地域資源の掘り起こし：石山商店街や伊吹の天窓など、地域活動にアート・デザインの側面から調査研究として参加しました。ワークショップや仮設的な空間製作を通じて、地域の潜在的なニーズを探り、地域資源の掘り起こしや活性化につながる活動を、デザインの視点から行います。

・店舗・建築の設計：保育園や道の駅といった建築物から、駐輪場からテラス、大学サインなどグラフィックを中心としたものまで、人の使われ方を調査分析し、具体的なデザインとして設計製作を行っています。

・デザインブランディング：空間からロゴ、パンフレットに至るまでトータルなデザインブランディングを行います。

✉ ksasaki@shc.usp.ac.jp



南 政宏 MINAMI Masahiro

人間文化学部生活デザイン学科 講師



**専門分野：**プロダクトデザイン、ブランディングデザイン

**キーワード：**プロダクトデザイン、ブランディングデザイン、グラフィックデザイン、パッケージデザイン、デザインビジネス

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

滋賀県のような産業や企業の商品開発、企業ブランディングをデザインすることに関わっています。地域にあるモノやコトをデザインすることで、付加価値を高めたり、本質価値を顧客へ届くように伝えたりすることを支援します。デザインというと、表面的な形だけと思われがちですが、どうすれば売れる商品になるのか、あるいは、企業の価値を上げることができるのかといった、仕組みづくりがデザインであり、出来上がるモノは結果に過ぎません。デザインを担当したプロダクト商品やパッケージデザインでも世界的な賞をいくつも受賞しています。

✉ mminami@shc.usp.ac.jp





**専門分野** : グラフィックデザイン

**キーワード** : グラフィックデザイン、視覚伝達デザイン、アートディレクション

**地域連携・産学連携・地域活動について :**

博士研究は「人の手によって作られる形に、なぜ人々は美という共感を得るのか」といった造形の根源的な疑問を解き明かすことでした。ごく平凡な職人が制約的な環境で長期間同じ形を作り出す行為と形に注目して、無名の職人の造形思想を中心に、東洋哲学・東洋美学・仏教美学に基づいて、人々が美しさを感じる造形の記号的な要素について探究しました。一方、人の手で作られた表現要素についてデジタル技術を通して定量的実証を行ってきました。現在は、これまでの研究手法を応用しながら、デジタル技術を使用しつつも、人の手によるデザイン作業を重視した新たなデザイン教育システムについて研究を行っております。

✉ seo.h@shc.usp.ac.jp



# 人間文化学部 生活栄養学科

矢野 仁康 YANO Mihiro

人間文化学部生活栄養学科 教授

**専門分野：**病態栄養学

**キーワード：**癌，癌幹細胞，ポリフェノール

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

食品成分が有する特性を明らかにする事で、癌予防など食生活の改善による我々の健康増進に貢献できるような研究を行っています。現在、機能性食品として知られているポリフェノール類が有する癌の浸潤・転移・再発の原因となる癌幹細胞に対する障害機能に着目し、これら食品成分による新たな生理活性について調べています。日常の食習慣を病気の発症に予防にいかにつなげて行くべきなのか等、食を活用した健康増進プロジェクトを支援できればと考えています。

✉ yano.m@shc.usp.ac.jp



滋賀県立大学



中井 直也 NAKAI Naoya

人間文化学部生活栄養学科 教授

**専門分野：**運動栄養学，筋生理・生化学

**キーワード：**筋肉，タンパク質合成，筋サテライト細胞，アミノ酸

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

筋肉には、サテライト細胞と呼ばれる幹細胞が存在し、筋肉の成長、再生、肥大に重要な役割を果たしています。運動や栄養、さらには色々な疾患や加齢等がサテライト細胞に及ぼす影響を分子レベルで研究しています。教育面では、スポーツに関連した筋力アップやスタミナ向上のための栄養摂取法について講義をしています。また、目的に応じた運動の種類や方法について実践的な授業を行っています。これらのことから、地域住民の健康の維持・増進について理論的および実践的な支援が可能であると考えています。

✉ nakai.n@shc.usp.ac.jp



辰巳 佐和子 TATSUMI Sawako

人間文化学部生活栄養学科 教授



**専門分野:** 臨床栄養学, 老化の栄養学, 時間栄養学, 慢性腎臓病, 骨粗鬆症におけるミネラル代謝学

**キーワード:** リン代謝, 健康寿命, 慢性腎臓病, 骨粗鬆症, 時間栄養

**地域連携・産学連携・地域活動について:**

私の研究は、臨床栄養学領域における病態栄養解明と栄養管理法の開発です。特に、「リン代謝」を明らかにし「健康寿命の伸延」を目指した研究に取り組んでいます。多くの加工食品やタンパク質に含まれるリンの過剰摂取は、慢性腎臓病を進展させ、骨代謝異常を誘発し、また単独で「老化」を加速させ寿命を短くさせることを明らかにしてきました。現在、時間栄養学を考慮したリン摂取法やリン吸収抑制効果のある栄養成分の探索を進めています。老化や慢性腎臓病・骨粗鬆症の予防を考案する上で、県産食材は魅力的なシーズです。研究成果をもとに、抗老化食品開発、健康寿命の伸延に貢献したいと考えます。

✉ tatsumi.s@shc.usp.ac.jp

福渡 努 FUKUWATARI Tsutomu

人間文化学部生活栄養学科 教授



**専門分野:** 基礎栄養学

**キーワード:** アミノ酸, ビタミン, 栄養素代謝, 栄養評価

**地域連携・産学連携・地域活動について:**

ビタミンやアミノ酸などの栄養素が体内でどのように代謝、利用され、生体にどのような影響をおよぼすのかを明らかにする研究に取り組んでいます。研究成果に基づいて、栄養素代謝を制御したり、栄養状態を評価することで、健康の維持・増進に寄与することを目指しています。

これらの取り組みから、ビタミン栄養状態の評価、食品中のビタミンの有効性、食品がアミノ酸代謝におよぼす影響など、ビタミン、アミノ酸を対象とした食品と栄養との関わりについてお話しすることができます。

✉ fukkie@shc.usp.ac.jp

奥村 万寿美 OKUMURA Masumi

人間文化学部生活栄養学科 准教授



**専門分野:** 臨床栄養学, 栄養教育, 給食経営管理

**キーワード:** 栄養食事指導, 食育, フードマネージメント, 行動経済学

**地域連携・産学連携・地域活動について:**

長年、大学病院で管理栄養士として働いていた経験や日本糖尿病療養指導士・NR サブリメンアドバイザー・健康咀嚼指導士などの資格を生かした「栄養と食に関する」支援ができます。現在、在宅療養支援のための多職種連携活動として、大津市の「チーム勢多」における研修会や市民啓発活動のコアメンバーとして参加したり、介護予防のための料理教室などを開催しています。また、農家レストランのメニュー開発やマーケティングなどのフードマネージメントに関わらせていただいています。

✉ okumura.m@shc.usp.ac.jp

佐野 光枝 SANO Mitsue

人間文化学部生活栄養学科 准教授



**専門分野：**食品学，分子栄養学

**キーワード：**DOHaD（生活習慣病胎児期起源説），妊婦と胎児の栄養，アミノ酸

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

専門の分子栄養学では「妊婦さんが食べた食事からくる栄養素が胎児の栄養状態にどのように影響するのか？」ということを明らかにするために研究を進めています。これまで滋賀県内の病院との共同研究から、滋賀県民の方々の健康に貢献できるように研究を進めてきました。これからも引き続き進めていきたいと考えています。また今後は食品学の専門を活かして、滋賀県の特産食品や新規食品としての可能性を秘めた未活用食材の商品化に向けた取り組みもやっていきたいと考えています。

✉ sano.m@shc.usp.ac.jp



遠藤 弘史 ENDO Hiroshi

人間文化学部生活栄養学科 准教授



**専門分野：**分子細胞生物学・生化学

**キーワード：**食品成分，癌，生活習慣病

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

天然物、特に食品中に含まれる成分には様々な疾病への予防効果があることが知られています。私の研究はポリフェノールを始めとする食品成分が疾病、特に癌に対してどのような作用をもたらすかを明らかにすることです。最近はその中でも、癌の転移や再発にかかわる癌幹細胞を抑制する食品成分を見出し、その詳細な機序の解明を目指しています。このような研究で新たな創薬の可能性を探り、人々の健康に寄与できることを期待しています。

✉ endo.h@shc.usp.ac.jp



今井 絵理 IMAI Eri

人間文化学部生活栄養学科 准教授



**専門分野：**公衆栄養学，栄養疫学

**キーワード：**公衆栄養学，栄養疫学，食事パターン，食生活

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

どのような食事が健康の維持や生活習慣病の発症を予防するためにはよいのか、大規模な日本人を対象とした研究を行っています。具体的には、全国の人を対象とした栄養調査や地域にお住まいの中高齢者を対象に健康維持、生活習慣病発症予防に関わる栄養素や食事のとり方（食事パターン）の解明に取り組んでいます。現在、滋賀県で5年おきに行われている栄養調査の集計を当研究室で担当しています。調査結果は地域に適応した食を中心とした健康づくり指導の基礎資料として活用される予定です。

✉ imai.e@shc.usp.ac.jp





**専門分野**：運動生理・生化学，スポーツ栄養学

**キーワード**：骨格筋，栄養，運動，糖代謝，脂質代謝

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

運動を行うことで骨格筋では様々な適応が起きます。例えば、重い負荷をかけてトレーニングを行えば筋肥大が起き、持続的なトレーニングでは筋持久力が向上します。その際に骨格筋細胞内で起きている適応反応を分子レベルで明らかにする研究を、培養細胞や単離骨格筋組織を用いて行っています。単離骨格筋を用いることで、生体に近い環境下で化合物のスクリーニングを行うことが可能です。

✉ higashida.k@shc.usp.ac.jp



**専門分野**：臨床栄養，腎臓，糖尿病

**キーワード**：腎臓における物質の輸送，慢性腎臓病，糖尿病性腎臓病，急性腎障害，たんぱく質と腎障害

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

腎臓は目立たない臓器です。しかし体液量の調節、ビタミンやミネラル調節、ホルモン産生、毒物代謝など多くを司ります。機能が低下するとこれらが乱れ、また腎機能は不可逆的であり、生活の質や寿命短縮に関与する医療上の重要な課題です。

腎障害の原因や治療法は十分には確立されておらず、その解明を目的に研究を行ってきました。リン・カルシウムの輸送体、たんぱく質の輸送機構、糖尿病治療薬と腎臓、などを標的としてきました。

これら基礎研究、臨床課題について研究を進め、社会に貢献して参ります。

✉ kuwahara.s@shc.usp.ac.jp



**専門分野**：基礎栄養学

**キーワード**：アミノ酸，ビタミン，脳機能，栄養状態，生体有効性

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

近年、タンパク質を構成するアミノ酸が脳機能に影響をおよぼすことが明らかとなりました。そこで、アミノ酸の摂取やその代謝経路を制御、調節することで食環境を通して、脳機能を保護することを目指しています。また、食品中のビタミンはその存在形態の違いにより、食品ごとに生体が利用できるビタミン量が異なります。そこで、食品摂取後に各ビタミン栄養状態を反映する生体指標を測定することにより、食品のビタミン有効性を評価する研究にも取り組んでいます。このような研究を通して、健康の維持増進に関する食環境や食品の機能性についての情報を発信していくことを目指しています。

✉ hatayama.s@shc.usp.ac.jp



**専門分野**：病態栄養学、分子細胞生物学

**キーワード**：食品成分、ポリフェノール、癌、分子細胞生物学

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

癌の治療が難渋する理由の一つとして、治療を行っても転移、再発してしまうことが挙げられます。近年、食品成分であるポリフェノールが抗癌活性をもつことが注目されています。そこで私たちは食品成分が癌転移や再発を抑えることができるのではないかと考え、その解析を行っています。このような研究を通して、食を活用した病態の進行抑制、疾病予防、健康増進に寄与していきたいと考えています。

✉ tanaka.mas@shc.usp.ac.jp

# 人間文化学部 人間関係学科

高梨 克也 TAKANASHI Katsuya

人間文化学部人間関係学科 教授



滋賀県立大学  
SHIGA UNIVERSITY OF APPLIED SCIENCES

**専門分野**：コミュニケーション科学，身体動作学

**キーワード**：会話分析，動作分析，フィールドワーク，多職種連携，コミュニケーション実践職

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

人々の日常生活の中での会話や身体動作をビデオに収録して微細に分析し，そこに現れた社会的な価値観や心理学的なメカニズムを炙り出していくことを専門にしています。手法はフィールドワークが中心で，実社会のさまざまな話し合いの現場や伝統的コミュニティの活動の場などに出かけて行って，リアルなコミュニケーションや自然な身体動作の実態を捉えることを心がけています。また，こうした観察からボトムアップに得られた知見をいかに現場での実践に再還元していくかということにも興味を持っています。現在の目標は「地域コミュニケーション学」という新領域を作ることです。

✉ takanashi.k@shc.usp.ac.jp



松嶋 秀明 MATSUSHIMA Hideaki

人間文化学部人間関係学科 教授



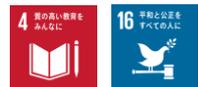
**専門分野**：臨床心理学

**キーワード**：非行の立ちなおし，スクールカウンセラー，放課後児童クラブ

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

本学赴任以来、滋賀県スクールカウンセラーとして小学校・中学校において、児童生徒の心理面での支援と、そのための手段として教職員へのコンサルテーション活動をしてきました。また、それに付随して不登校、非行、いじめ、特別支援教育などについての講演、相談活動を行っています。草津市のいじめ対策協議会の委員もしています。また、昨年から長浜市の放課後児童クラブにおいて、児童にとってのよりよい放課後生活を保障するためにどのような支援が可能か調査を行っています。

✉ matsushima@shc.usp.ac.jp





**専門分野**：比較認知発達科学

**キーワード**：乳幼児，発達，進化，保育，食行動

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

子育て応援ラボ「うみかぜ」(<http://umikaze.sub.jp/>)を拠点として、おもに乳幼児期の母子コミュニケーションに関する研究を行っています。研究テーマはさまざまですが、いつも大切にしているのが「発達」と「進化」の視点です。世の中には、本来の人の姿に照らすと、合点のいくこと、いかないことが多々あります。2つの視点から人の本質に迫ることで、本来の人の姿を浮き彫りにし、その行動を深く理解したいと考えています。研究成果の多くは、保育の実践に活かせるものです。それらは、一般の方を対象とした講演や実践書をとおして、社会に公表しています。

✉ [aueno@shc.usp.ac.jp](mailto:aueno@shc.usp.ac.jp)



**専門分野**：地域・都市社会学，村落社会学，政治社会学

**キーワード**：地域社会，地方自治，都市，農山漁村，社会調査

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

グローバル化や少子高齢化・人口減少などの社会変動のもとで、都市や農山漁村はどのように変わっていくのでしょうか。身の丈にあわない無理な経済成長を志向せず、持続可能で、かつ公正な地域社会のあり方を求めて、各地でフィールドワークを行っています。社会調査の技術をもとに、聞き取り調査も行いますし、アンケート調査による統計解析も行います。即効性のある政策や実践は、おそらくないのだろうと思います。耳触りのよい安直な処方箋を書くよりも、まずは、市町村レベルでも集落レベルでも、その実態を科学的に把握することから始めるほうが、結局は問題解決の早道ではないかと思っています。

✉ [maruyama.ma@shc.usp.ac.jp](mailto:maruyama.ma@shc.usp.ac.jp)



**専門分野**：歴史社会学，社会運動史

**キーワード**：基地・軍隊，社会運動・市民運動，環境，暴力

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

軍事基地の建設によって地域社会がどのように変容し、地元住民がどのような困難や問題を抱えているのか、歴史的な視座を大切にして調査をしています。近年では、京都府京丹後市丹後町宇川地区において、米軍基地建設にともなう電磁波環境の変化とそれがもたらす生活環境の変化に着目し、地元住民とともに電磁波測定調査などを定期的に行ってきました。国策として進められる事業を、住民の立場から検証するとともに、住民が取り組んでいるさまざまな営みを記録に残し、幅広い人びとと共有していく媒介者として活動していきたいと思っています。

また、1960年代～70年代の社会運動に関する資料の収集、整理、電子データ化などの作業への協力も行っています。

✉ [ono.m@shc.usp.ac.jp](mailto:ono.m@shc.usp.ac.jp)



**専門分野**：教育方法学，教育学

**キーワード**：持続可能な開発のための教育（ESD），グローバル教育，カリキュラム，教育評価，授業研究

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

国内外に存在する貧困や格差、環境破壊などの地球的諸問題の解決を通じた持続可能な社会の実現に取り組むことのできる人間の育成をめざす教育活動である「持続可能な開発のための教育（ESD）」やグローバル教育について、特に、効果的なカリキュラムの編成や授業づくり、教育評価のあり方に焦点をあてて研究を進めています。また、今後求められる学力の内実の検討やそうした学力の保障をめざした実践のあり方についての研究、授業研究を通じた授業改善などにも取り組んでいます。研究を進めるにあたっては、学校現場の先生方や地域の方々との共同研究を積極的に行っていきたいと考えています。

✉ kimura.yu@shc.usp.ac.jp



**専門分野**：教育学，教育史

**キーワード**：教育制度，地方教育行政，地域教育史，実業補習学校制度

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

専門は、教育学・教育史です。近代日本において、各地域がどのように学校設立や就学普及に取り組んできたのか、その歴史的過程を研究しています。愛知県教育史や豊田市史、伊賀市史などの自治体史編纂事業にも携わりながら、地域教育史の掘り起こしに取り組んでいます。

また、滋賀県内の学校教師とともに、現代日本社会における教育課題について学習会を行ったり、教育研究会を支援したりしています。

✉ sugiura.y@shc.usp.ac.jp



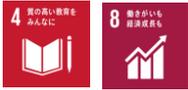
**専門分野**：教育学，青年期教育

**キーワード**：ひきこもり，若年無業，若者支援，ユースワーク，居場所

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

不登校、中退、ひきこもりなどを経験した若者に対し、どのような社会的環境や支援が必要か、研究・実践しています。たとえば、彦根市との共同研究では、ひきこもり等の若者たちが集うフリースペース（居場所）を試験的に開設しました。研究として成果や意義を明示することで、市の独自事業として位置づけることに寄与しました。また、ひきこもり・若者支援関連の委員や講演等もお引き受けしています。ひきこもり状態にある若者は、滋賀県内に約 6,000 人ともいわれています。新たに支援体制を構築したり、活動のSVやスタッフ研修をおこなったりする際に、お役に立てるかもしれません。

✉ hara.m@shc.usp.ac.jp



**専門分野**：社会学、福祉社会学

**キーワード**：社会的ひきこもり，障がい者福祉，アサーティブコミュニケーション

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

社会的ひきこもりの調査をした経験から、精神保健福祉士の資格を取ってグループホームや地域生活支援センターで精神障がい者福祉の現場について学びました。そこから、自治体の障がい者福祉関連の委員をしたり、コミュニケーションの問題についてはアサーティブトレーニングに関わっています。

✉ ynakamura@shc.usp.ac.jp



**専門分野**：社会心理学，教育心理学，認知心理学

**キーワード**：モチベーション，セルフコントロール，社会的影響，心理測定，調査設計

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

私たちの行動選択の多くは、過去の経験や、周囲の環境・他者・出来事などの影響を受けています。実際に私たちが「いま、ここ」でおこなっている行動の選択とそれに伴う自分の意志に関する感覚が、どのような情報処理によって実現し、どのような機能を持っているのか、を明らかにしていきたいと考えています。

また、教育実践の専門家との共同研究として、人の主体的なふるまいに関する心理学的な知見や手法を活かした社会・教育のデザインに関する研究を行っています。特に、知識・能力の測定や、因果関係の推定・効果検証のための調査の設計、統計分析などの役割を担当しています。

✉ goto.t@shc.usp.ac.jp

# 人間文化学部 国際コミュニケーション学科

棚瀬 慈郎 TANASE Jiro

人間文化学部国際コミュニケーション学科 教授



**専門分野**：文化人類学，チベット地域研究

**キーワード**：文化人類学，チベット

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

私の研究対象は、主にチベット地域の歴史や社会、文化です。そのため、関連する文献を読むだけでなく、できるだけ現地に入って、そこで暮らす人々の声を聞くように心がけています。また、チベット人自身によるチベット研究のお手伝いをするため、何人かのチベット人留学生を指導してきました。

✉ stanase@shc.usp.ac.jp



呉 凌非 GO Ryohi

人間文化学部国際コミュニケーション学科 教授



**専門分野**：言語学，言語処理

**キーワード**：深層格，表層格，意味構造，動詞分類，モダリティ表現

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

私は修士課程においてはコンピュータによることばの翻訳を研究し、博士課程においては言語処理のためのことばの意味記述を中心に研究し、その後は関連した研究をしてきました。教育に関しては、専門科目のほかにも、中国語も教えています。いざ必要になった場合、速成中国語のアドバイスもしています。また、私は囲碁のアマチュア6段の棋力をもっており、彦根東高等学校の囲碁サークルの強化訓練の指導員としても活動に携わっております。

✉ go.r@shc.usp.ac.jp



ジョン リピー John RIPPEY

人間文化学部国際コミュニケーション学科 教授



**専門分野**：アメリカ文学，創作（詩），外国語習得

**キーワード**：アメリカの詩，詩の創作，自然，里山，日本の詩・翻訳

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

専門は英語文学、文芸（詩）創作です。自然と文学との関係にも関心があり、日本の俳句、短歌を調べる中で、里山に強い関心を持つようになりました。その関係で、鶴飼先生が主導されている彦根市石寺町の環境保全・町おこし運動にも関わるようになり、そのイベントにできる限り滋賀県立大学の留学生を連れて参加しています。

✉ rippey.j@shc.usp.ac.jp

ボルジギン ブレンサイン BORJIGIN Burensain

人間文化学部国際コミュニケーション学科 教授



**専門分野**：近現代史，現代中国研究，モンゴル満洲地域研究

**キーワード**：近現代史，モンゴル・満洲地域研究，中国の少数民族問題，日中関係

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

研究の出発点はモンゴル近現代史ですが、モンゴル民族はモンゴル国以外に、中国とロシア連邦にも広く分散居住しており、モンゴル人の近現代的足跡を追うこと自体が東アジア広域の民族と国家関係に深く関係してきます。日本は20世紀の初頭から満蒙へ進出し、モンゴル人と深く関わってきた歴史を持っています。従って、近現代における日本とモンゴルの関係は日本と中国の関係にも密接に関連してきます。日中関係の複雑さを考えると、大学の授業では、モンゴルや他の少数民族の視点から日中関係を解説する方がより生産的であると実感しております。

✉ bburensain@shc.usp.ac.jp

山本 薫 YAMAMOTO Kaoru

人間文化学部国際コミュニケーション学科 准教授



**専門分野**：英文学

**キーワード**：英語圏文学，世界文学，ヨーロッパ現代思想

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

19世紀末から20世紀のイギリスの小説を専門に研究しています。19世紀のイギリスの小説を、19世紀のイギリス国内の歴史や思想の中で考えるだけでなく、ヨーロッパの思想の流れの中で位置づけながら、イギリスとイギリス小説の特異性を明らかにしようとしています。また、英語で創作しているアフリカ、インド、東欧出身の作家の作品も研究の対象で、現代の世界情勢と結び付けながら授業でもテキストとして使うこともあります。

可能な協力、支援、アドバイス：異文化（ヨーロッパ、とくにイギリス）の文学・思想・芸術理解に関する事柄

✉ yamamoto.k@shc.usp.ac.jp

吉村 淳一 YOSHIMURA Junichi

人間文化学部国際コミュニケーション学科 准教授



**専門分野：**ドイツ語学

**キーワード：**ドイツ語、ドイツ語史、ドイツ文化、言語学、メディア学

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

私は中世から現代までのドイツ語を対象に「多義性」「表現の交換可能性」「言語変化」について研究しています。とりわけ（１）一つの形態がさまざまな環境におかれることによって多種多様な意味を生み出すメカニズムや、（２）ある品詞が別の品詞と互換性をもつための表現形式について多大な関心をもっています。本学では主としてドイツ語やドイツ文化に関する講義を担当していて、これまで外国語に対するアレルギーをもっている人にも楽しく学習できるように配慮してきました。ドイツ語やドイツ文化の魅力だけでなく、「ことば」そのものの「旨味成分」や「ものの考え方」についてもお話することができると思います。

✉ yoshimura.j@shc.usp.ac.jp



河 かおる KAWA Kaoru

人間文化学部国際コミュニケーション学科 准教授



**専門分野：**朝鮮近代史

**キーワード：**朝鮮・韓国、植民地、在日朝鮮人、地域史、多文化共生

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

最も専門に近い領域としては、地域社会での在日朝鮮人の歴史に関心があり、在日朝鮮人に限らず「地域の近現代史の中の世界」という観点で、地域の歴史掘り起こしに貢献したいと考えています。自治体史の執筆経験もあります。また、多文化共生や在日外国人の人権問題に関心があり、県や市町の多文化共生関連の指針策定に関わったり、多文化共生や外国人の人権に関するテーマでの研修講師を務めたり、外国人住民や外国人学校を支援する市民活動に関わったりしてきました。

✉ kkawa@shc.usp.ac.jp



マーティン ホークス Martin HAWKES

人間文化学部国際コミュニケーション学科 准教授



**専門分野：**応用言語学

**キーワード：**タスクを重視した言語教育(TBLT), English Medium Instruction (EMI), 言語教授法, 第二言語習得, 英語の歴史

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

近畿地方において、全日本大学英语模擬国際連合の年次大会(JEMUN)が開催されています。30カ国の大学生が参加し、毎年参加者は300人以上です。私は2016年より、滋賀県立大学から参加する学生の指導者として、学生を引率しています。また、2012年より全国語学教育大会(JALT)京都支部の役員として、他の役員とともに滋賀県・京都府の言語教師を応援するため、演習・講習・学会を主催しています。

✉ hawkes.m@shc.usp.ac.jp



橋本 周子 HASHIMOTO Chikako

人間文化学部国際コミュニケーション学科 准教授



**専門分野**：文化史, 思想史

**キーワード**：フランス, 近代, 美食, 社交

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

人間にとって「よき」食のありかたとはどのようなものかについて、主にフランスをモデルに研究しています。指導する学生にはフランス留学を経験する者も多く、こうした教育活動を通し、微力ながら滋賀県とフランスとの交流に貢献できるよう努めていきたいと考えています。彼ら・彼女らが将来的に、滋賀県で新たな食のかたちを実践していってくれることを期待しています。

✉ hashimoto.ch@shc.usp.ac.jp

中谷 博美 NAKATANI Hiromi

人間文化学部国際コミュニケーション学科 講師



**専門分野**：認知言語学

**キーワード**：認知文法理論, 語用論, 英語教育

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

認知（ものの捉え方）がどのように文法に反映されているのか（＝認知文法理論）、発話（何か言うこと）が会話においてどのような意味を持つのか（＝語用論）を実際の会話に基づいて研究してきました。この認知文法理論および語用論の研究成果を、英語の授業において、教師がどのように活用すれば学習者の第二言語習得に貢献できるのかを研究しています。

✉ nakatani.h@shc.usp.ac.jp

# 人間看護学部 人間看護学科

甘佐 京子 AMASA Kyoko

人間看護学部人間看護学科 教授



**専門分野：**精神看護学

**キーワード：**心の病気（精神疾患）、心の健康（メンタルヘルス）教育、笑い与健康

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

精神的なストレスが増加するとともに、精神的な疾患を発症しやすい思春期にある生徒を対象に、心の病気（精神疾患）や、心の健康（メンタルヘルス）について、中学生や高校生を対象にした出張講義を行います。自分の心の状況を知ることで、必要な支援や治療へ自らをつなげていけることを目的にしています（早期発見・早期治療）。また、地域住民の方を対象に、心の健康教育として「笑いの効用」についての講義と日常生活を題材にした漫才をセットにした講演活動も行っています。

✉ amasa.k@nurse.usp.ac.jp



伊丹 君和 ITAMI Kimiwa

人間看護学部人間看護学科 教授



**専門分野：**基礎看護技術，教育工学

**キーワード：**生活と健康，リラクセーション，防災，腰痛予防，学習システム

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

看護はすべての人を対象にします。すべての人が「その人らしく生き活きと健康に生活する」ために、どのような看護サービスが提供できるのか？そのことを授業だけでなく、地域の皆さんを対象に「生き活き健康支援活動」を企画・実施する学生プロジェクトチーム「未来看護塾」の活動を支援しています。そのような中、心と身体を健康にする「笑いヨガ」「タオル体操」「ハンドマッサージ」「足浴」「音楽」などの検証や、「防災」に向けた取組も行っています。また、工学部と共同で「腰痛予防」のための「学習システム」も開発中です。

様々な観点から、地域の皆さんの健康な生活を支援していきます。

✉ k-itami@nurse.usp.ac.jp



糸島 陽子 ITOJIMA Yoko

人間看護学部人間看護学科 教授

**専門分野：**成人看護学

**キーワード：**エンドオブライフケア, エンドオブライフ教育, 医療倫理

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

これからの多死社会に向けて、一人ひとりが最期まで自分らしく生きることについて考える必要があると感じています。大学では、エンドオブライフケア（人生の最期を支える看護）について講義をしています。地域活動では、高齢者施設における看取りのケアや、看護職を対象とした医療倫理についての講義をしています。

人生最期の時をどのように過ごしたいのか（終活）などについて、一緒に考えることができればと思っています。

✉ itojima.y@nurse.usp.ac.jp



滋賀県立大学  
SHIGA UNIVERSITY OF APPLIED SCIENCES



岩谷 久美子 IWATANI Kumiko

人間看護学部人間看護学科 教授

**専門分野：**母性看護学, 助産学

**キーワード：**母性看護学教育, 助産学教育, 安全管理, 分娩介助, 子育て支援

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

最近取り組んでいる研究は、助産の安全管理に関する内容です。特に現在は、分娩介助において安全管理教育モデルを作成し、内容妥当性及び活用性を検討しました。さらにこの教育モデルを発展させ、安全管理能力を測定する指標の開発に取り組んでいます。同時に助産師教育の安全管理教育の充実に向けた教育方法の開発研究にも取り組んでいます。

✉ iwatani.k@nurse.usp.ac.jp



河野 益美 KONO Masumi

人間看護学部人間看護学科 教授

**専門分野：**地域看護学, 在宅看護学

**キーワード：**在宅看護学教育, 家族支援, 在宅看取り, 介護保険制度, 訪問看護師のストレスマネジメント

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

在宅看護学領域は、超高齢社会、多死社会に向けて、近年急速に関心が高まってきた領域ですが、まだまだ発展途上にある分野です。人々の「住み慣れた地域で自分らしく暮らしたい」という願いを実現する」という思いをもって教育と研究に携わっています。具体的には、在宅看護実践方法や在宅ケアシステムの開発・改善に取り組んでいます。自宅で生活することは当たり前のことですが、その当たり前のことを病気や障害をもって当たり前が続けられるよう、介護保険制度をはじめとしたサービスの活用や誰もが住みよい、住み続けられる地域づくりを、皆さんと共に考え、共有していきたいと考えております。

✉ kono.m@nurse.ac.jp



滋賀県立大学  
SHIGA UNIVERSITY OF APPLIED SCIENCES





**専門分野：**小児看護学

**キーワード：**プレパレーション, 学校看護師, 家族看護

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

子どもの不安や恐怖を最小限にして、子どもやその家族の持てる力を引き出す関わりをプレパレーションといいます。様々な子どもたちへのプレパレーションに関する研究を行っています。子どもの心理や理解を踏まえ、子どもの権利を尊重した関わりとはいったいどのようなことなのかを一緒に考えていければと思います。

✉ kokabu@nurse.usp.ac.jp



**専門分野：**婦人科腫瘍学, 産科異常学

**キーワード：**卵巣癌, 子宮体癌, 子宮頸癌, 足浮腫, 医療機器

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

私は平成 28 年 4 月に当大学に着任した産婦人科の医師で、平成 25 年まで大津赤十字病院の第一産婦人科部長の任務に携わっておりました。同病院は滋賀県の総合周産期母子医療センターも兼ねており、私は県内の異常妊娠・分娩を数多く取り扱ってきました。その経験を活かし、現在は大学院生と共に妊娠期における足浮腫の臨床研究を行っています。

しかし、元々の専門は婦人科腫瘍の診断・治療で、中でも卵巣癌、子宮体癌、子宮頸癌の早期発見の研究を重点的に行ってきました。今までの知識を活かし、癌の早期発見のための医療機器開発や検査法も検討しています。

✉ koshiyama.m@nurse.usp.ac.jp



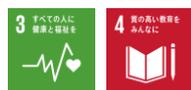
**専門分野：**基礎看護学

**キーワード：**組織マネージメント, 専門職教育, 救急看護, クリティカルケア看護

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

看護師の専門職（プロフェッショナリズム）教育や、看護組織のマネージメントが研究のテーマです。社会情勢を背景に看護職への期待はますます高まっていますが、他学問領域と比較すると学問としてはまだ黎明期をぬけたところという感があります。看護にはかたちにならず埋もれている実践知がまだまだたくさんあり、社会に認知されていません。この埋もれている実践知を明らかにし、かたちにして教育・実践に活用していくことやそれらを組織マネージメントに活かすことで、地域の看護職の皆さんへの貢献、看護学への貢献につなげていきたいと考えています。

✉ honda.k@nurse.usp.ac.jp



安原 治 YASUHARA Osamu

人間看護学部人間看護学科 教授



**専門分野：**解剖学，神経科学，神経内科学，神経病理学

**キーワード：**神経疾患，認知症，脳のしくみ

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

脳のしくみや神経疾患の発症機序の解明をめざして、実験医学研究に取り組んできました。具体的には、京都大学や滋賀医科大学の医学部の協力を得て、剖検で得られたヒトの脳や、ラットなどの実験動物の脳標本を用いて、生体活性物質の局在や病気での変化を解析しています。地域の住民の方々や高校・中学の皆様には、人体のしくみや病気の発症のしくみなど、出前授業などでお話しすることができます。また、地域の看護職やその他の医療職の皆様には、医学的な側面から研究を支援します。

✉ yasuhara.o@nurse.usp.ac.jp

横井 和美 YOKOI Kazumi

人間看護学部人間看護学科 教授



**専門分野：**臨床看護学，慢性期看護学

**キーワード：**慢性の病い，セルフマネジメント支援，ケアとしての音楽療法

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

慢性の病いをもつ方は、病気からくる身体的な問題だけでなく、病気からくる不安などの心理的な問題、社会参加や人間関係など様々な問題をかかえて生きていきます。

このような慢性の病いをもって生活されている方に、代替療法の一つである音楽療法を看護援助と組み入れて提供できるケアの方法を探究しています。現在、滋賀県内で活動できる音楽療法士の方と身体障がい児者や要介護高齢者などを対象にケアの場に音楽療法を組み入れる活動を行っています。そして、長期にわたり持続する病いと共に生きる人とその家族が、病気と折り合いをつけて、その人らしい生活を送ることを目指しています。

✉ yokoi@nurse.usp.ac.jp

荒川 千登世 ARAKAWA Chitose

人間看護学部人間看護学科 准教授



**専門分野：**成人看護学

**キーワード：**臨床看護学，急性期看護，回復期看護，看護教育，リンパ浮腫ケア

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

成人期の急性期～回復期の看護、主に「手術を受ける患者への看護」に携わってきました。周術期を安全に安楽に過ごしていただくことはもちろんですが、手術後の人生をよりよいものにしていただきたいというおもいがあります。急性期における回復する力を引き出す援助、回復期における生きていくことへの励みとなるようなケアについて考えています。「病気や治療に伴う身体的・心理的ストレスを緩和するための看護援助」「続発性リンパ浮腫のセルフケア」「看護基礎教育におけるアクティブラーニング」などをテーマとしています。

✉ arakawa.c@nurse.usp.ac.jp

板谷 裕美 ITAYA Yumi

人間看護学部人間看護学科 准教授



**専門分野**：助産学，母性看護学

**キーワード**：母乳育児，産後ケア，ウィメンズヘルス，月経カップ，助産教育

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

助産師教育に従事しながら、東近江地域の産後ケアシステム構築に関する連携研究に携わってきました。地域で子育てをしながら生活する家族支援の在り方について、多職種が連携・協同しながら考えていく必要性を強く感じています。一方で、ウィメンズヘルスの向上に寄与する一環として、月経カップの開発や使用に関する研究の拡充を検討しています。

✉ itaya.y@nurse.usp.ac.jp



岡本 紀子 OKAMOTO Noriko

人間看護学部人間看護学科 准教授



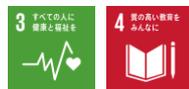
**専門分野**：老年看護学

**キーワード**：高齢者の肺炎予防、高齢者の感染予防

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

地域で暮らす高齢者の肺炎予防、感染予防のためのケアについて研究を行っています。高齢者の日常生活に着目し、簡便で継続できるセルフケア等を検討し、高齢者やご家族、ケア提供者の方に活用されるよう努めています。このような研究活動を通して効果的な予防策が習得できるよう、参加者の皆さんと手洗い等を実践しています。また、易感染者である高齢者の感染予防について、ケアに携わる医療・福祉職の方々と一緒に取り組みたいと考えています。

✉ okamoto.n@nurse.usp.ac.jp



川端 智子 KAWABATA Tomoko

人間看護学部人間看護学科 准教授



**専門分野**：小児看護学

**キーワード**：未成年の喫煙防止教育，タバコに関する健康教育

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

未成年の喫煙防止に関する研究を行っています。未成年の喫煙は法律で禁止されているということだけでなく、成人よりも健康被害が重大になりやすいことから防止していく必要があります。また、受動喫煙の被害など、子どもたちのタバコによる健康被害を防ぐために地域でのタバコに関する健康教育など様々な活動を行っています。主には、小中学校への出張講義を通し、子どもへのタバコに関する健康教育を行っています。

✉ kawabata.t@nurse.usp.ac.jp



小林 孝子 KOBAYASHI Takako

人間看護学部人間看護学科 准教授



**専門分野**：公衆衛生看護

**キーワード**：母子保健，育児支援，保健師，発達障害

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

安心して子育てができるための支援について研究を進めています。これまで、「子育て中の母親の安心」について指標開発を行ってきました。この指標を、提供するサービスの評価に使っていただくことで、子育て支援の充実につながることを目指しています。

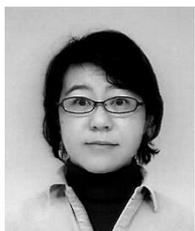
現在は、発達障害のある女性の妊娠から育児期までの支援方法の開発に取り組んでいます。

✉ kobayashi.ta@nurse.usp.ac.jp



馬場 文 BABA Aya

人間看護学部人間看護学科 准教授



**専門分野**：公衆衛生看護学

**キーワード**：児童虐待防止，子どもの貧困，子ども家庭支援

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

令和元年度は、日野町子ども支援課・福祉保健課と共同で児童虐待防止に寄与する子ども家庭支援体制の構築に向けた調査研究（本学 SDGs 特化型地域課題研究費助成による）を実施し、体制強化の一步前進に繋げることができました。保健・福祉分野の行政・対人支援の現場における課題について、調査・研究を現場の方々と共に、課題解決の一助となるような研究活動を今後も目指していきたいと思ひます。

✉ baba.a@nurse.usp.ac.jp



古川 洋子 FURUKAWA Yoko

人間看護学部人間看護学科 准教授



**専門分野**：母性看護学，助産学

**キーワード**：産み育て支援，思春期の健康支援，いのちの教育，女性の健康（ウィメンズヘルス）支援

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

女性の妊娠から出産、産後そして育児期の健康を支援する地域活動を進めています。女性にとって、妊娠や出産、そして育児がより良い体験となる支援を行っています。そして、子ども虐待防止の視点に立ち、その予防や多職種連携、啓発活動を行っています。また、思春期にある児童を対象に、性の健康やプレコンセプションケア、いのちの教育について出張講義を行います。思春期の健康は、その後の健康生活へと繋がる一步です。

✉ furukawa@nurse.usp.ac.jp





**専門分野：**精神看護学

**キーワード：**患者看護師関係, involvement, かかわり, 巻き込まれ, 境界

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

研究テーマは、「看護におけるかかわり」です。相手との間で「経験を共有すること」「関心を示すこと」「信頼関係を築くこと」「責任や感情、プライバシーなどの境界を調整すること」という4視点でかかわりをとらえ、看護学生の教育や看護師の相談を行っています。役割を持った対人関係にも応用可能です。

その他に、県内病院の看護師の研究相談に応じています。また、日本精神看護協会滋賀県支部の研究セミナー講師や看護研究発表会の講評を行っています。さらに、日本看護協会滋賀県支部の実習指導者講習会や滋賀県専任教員養成講習会の講師を担当しています。

✉ makino@nurse.usp.ac.jp



**専門分野：**在宅看護学, 民俗学

**キーワード：**在宅看護, 訪問看護, 在宅看護教育, 民俗学

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

私が専門としている在宅看護では、地域で安全かつ安心して暮らしていけるように、医療的ケアが必要な方や障がいがある方、乳幼児から高齢者まで幅広い方への支援方法を考えます。このために今までの生活習慣や地域の特性をふまえて、対象者をとらえます。私は看護とは異なる分野の民俗学も研究しています。民俗学から学んだ地域で暮らす人々の生活や信仰というような文化的な背景が、より深い対象者の理解へ導きます。そして、個人だけでなくその地域が持つニーズに合った看護を考え、地域の持つ強みを活かしていけるような社会資源の在り方を見つけていきたいと思っています。

✉ morimoto.a@nurse.usp.ac.jp



**専門分野：**基礎看護学

**キーワード：**危険認知, 視線運動, 医療安全, 看護学生, 看護師

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

看護師さんは、普段、患者さんへ安全なケアを行うために、何を見ているのか？というところに関心を持ち、看護師さんの視線や注視点などの研究をしています。

それを、経験の少ない看護師さんや看護学生さんに伝えることができれば、危険を回避した安全な看護援助につながると考えています。大学では、看護学生さんに医療事故を身近に考えてもらうために、医療事故体験学習を行っています。研究や教育を通して地域の看護の質の向上につながればと思っています。

✉ yoneda@nurse.usp.ac.jp



生田 宴里 IKUTA Eri

人間看護学部人間看護学科 講師



**専門分野**：クリティカルケア看護

**キーワード**：救急看護，周術期看護，エンドオブライフケア

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

私の専門分野は「クリティカルケア看護」であり、重篤な疾患や外傷、身体的侵襲の大きい手術などによって生命の危機的状況にある患者さんとそのご家族に対する看護を教えています。

また、臨床現場では、患者さんの生命の維持・回復にむけて看護を行うなかで、死に直面することも多くあります。このような状況にある患者さんやご家族、看護実践を行う看護師を対象に、クリティカルケア領域におけるエンドオブライフケアに関する研究を行っています。教育・研究活動をとおして、クリティカルケア看護の質向上に貢献したいと考えています。

✉ ikuta.e@nurse.usp.ac.jp

岡崎 瑞生 OKAZAKI Mizuki

人間看護学部人間看護学科 講師



**専門分野**：老年看護学

**キーワード**：生活の質，高齢者，障害者，家族支援

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

健康寿命延伸に向けた研究活動に取り組んでいます。高齢者の社会参加やフレイル・サルコペニアを中心に研究をしています。障害者の就労支援を行う NPO 法人の立ち上げに参加し、障害児・者の地域生活支援を行ってきました。高齢者や障害・疾患を持ちながら生活している人々の看護を通して、暮らしやすい社会の構築を目指します。

✉ okazaki.m@nurse.usp.ac.jp

小野 あゆみ ONO Ayumi

人間看護学部人間看護学科 講師



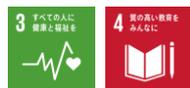
**専門分野**：成人看護学

**キーワード**：慢性期看護，エンドオブライフケア，肝疾患患者の支援，集団教育

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

肝疾患や糖尿病、がんなどの病気にかかった人への支援について研究しています。特に、「肝臓病教室」という、肝疾患患者さんやその家族が集う場における支援について、調査や取組を行っています。滋賀県内の病院でも開催されているもので、多くの患者さんが通われています。患者さんやその家族の方が安心して療養を続けられるための支援を、患者さんや家族の方、病院スタッフと一緒に考えていきたいと思っています。

✉ ono.a@nurse.usp.ac.jp



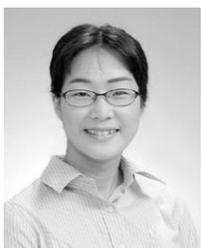
**専門分野**：成熟看護学

**キーワード**：慢性疾患看護，生活習慣病看護，脳卒中看護

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

脳卒中とは、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の総称です。脳卒中を患うと、認知機能の低下、失語症、運動麻痺などが後遺症として残ることから、それまでのその人らしい生活を奪う恐ろしい病気といえます。私は、脳卒中患者が少しでも前向きな気持ちになれること、社会参加できることを目的とした研究に取り組んでいます。また、脳卒中の患者会と連携した活動に取り組んでいます。現在、脳卒中を患った当事者の方には、オンラインを活用し、本学の看護大学生対象に、様々な体験を語っていただいています。

✉ katayama.m@nurse.usp.ac.jp



**専門分野**：公衆衛生看護学

**キーワード**：公衆衛生看護，保健師活動，ひきこもり，家族支援

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

市の保健師として勤務していた経験があり、大学では保健師課程の授業や実習指導に携わっています。現在は、ひきこもり状態の方やその家族への支援に関する研究を進めています。ひきこもりについては、近年高齢化や長期化が課題となっています。地域の方々と一緒にひきこもり状態にある方やその家族への支援について、一緒に考えていきたいと思っています。

✉ kawaguchi.k@nurse.usp.ac.jp



**専門分野**：成人看護学

**キーワード**：がん看護，緩和ケア

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

がん看護専門看護師として、臨床での実践を重ねながら、大学や臨床における看護教育・研究に携わっています。がん患者さんとそのご家族がその人らしく生き抜くことへの支援やケア提供者である看護師への支援に関心があります。がん看護に関する実践、教育、研究に関して、地域の皆様と協働し、がん患者さんとそのご家族の Quality of Life の向上に貢献したいと考えています。

✉ kitashita.m@nurse.usp.ac.jp

下通 友美 SHIMODORI Tomomi

人間看護学部人間看護学科 講師



**専門分野：**精神看護学

**キーワード：**心の病気（精神疾患）、地域生活支援、精神科訪問看護

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

私は精神疾患をもつ方々が地域で安心して生活できるよう支援をしたいと考えています。そのために、精神疾患をもつ当事者の方々や、その支援にあたっておられる職種の方々の声をきかせて頂き、一緒に課題解決に取り組んでいきたいと考えています。研究の世界に足を踏み入れたばかりですが、地域のみなさまと力を合わせていきたいと思っています。

✉ shimodori.t@nurse.usp.ac.jp



関 恵子 SEKI Keiko

人間看護学部人間看護学科 講師



**専門分野：**基礎看護学

**キーワード：**看護技術、リラクゼーション、マッサージ、看護師の腰痛

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

「市民および医療に携わる人々とのふれあいを通して志向する未来看護塾」の副顧問として、人間看護学部の学生さんと子どもや高齢者、障がいの有無に関わらず地域の方々を対象に心も体も健康になってもらえるような活動（ハンドマッサージや足湯、キッズ広場）をしています。また、県内における看護師の腰痛予防や地域の防災訓練に関する研究を通して、地域で活躍されている看護師や地域住民への健康支援を行っています。

✉ seki.k@nurse.usp.ac.jp



千田 美紀子 SENDA Mikiko

人間看護学部人間看護学科 講師



**専門分野：**基礎看護学

**キーワード：**学生、学び、実習指導、腰痛予防、教育

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

看護学生が自ら楽しく学べるように、主に病院での実習において困っている場面を振り返りながら、どのような支援が必要なのかを研究してきました。患者さんや地域の人々に寄り添える看護職者になってほしいと思い、日々授業や研究に取り組んでいます。また、地域の人々が生き生きと生活していけるような活動を企画・実施している学生プロジェクトチーム「未来看護塾」の活動を支援しています。活動を通して、地域に貢献していきたいと思っています。

✉ senda.m@nurse.usp.ac.jp





**専門分野：**小児看護学

**キーワード：**発達障害児とその家族への看護，プレパレーション

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

発達障害をもつ子どもの医療機関への受診支援について研究をしています。発達障害児にとって外来受診は、受診する意味や目的がわからないことが多く、不安や恐怖心が大きくなる場合があります。そうすると、上手く診察や治療を受けることができず、嫌な経験だけが記憶として残ります。外来受診での嫌な経験は、大人になるまで続き、受診できなくなることで、健康管理問題につながってしまいます。そういった状況を改善するために、子どものがんばれる力を引き出せるような看護活動や支援をしていきたいと思っています。

✉ tamagawa.a@nurse.usp.ac.jp



**専門分野：**クロニックケア看護

**キーワード：**慢性疾患看護，語り，ライフヒストリー

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

慢性疾患とは、一生付き合っていくなくてはならない病気です。患者さんは、退院されてからも病いとともに生きることが必要です。よって日々の生活が患者さんに大きな影響を与えます。患者さんの自己管理サポート方法の一つが患者さんの「語り」を聴くことです。患者さんには、今までの人生を語っていただくライフヒストリー法を用います。看護外来で忙しい中、限られた時間の中でどのように患者さんを理解していくか、特に糖尿病患者さんで自己管理がうまくいかない方、反対にうまくいく方の要因をライフヒストリー法を用いて自己管理を進めていくための協力を行いたいと思います。

✉ nakagawa.miw@nurse.usp.ac.jp



**専門分野：**母性看護学 助産学

**キーワード：**シミュレーション教育，医療安全，危険予知，助産師の実践能力，助産師教育

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

助産師として約15年ほど臨床で働き、多くの出産に関わりました。出産はいつ何が起こるか分からない、常にリスクと隣り合わせの出来事です。そのような中でどのようにしたら母子ともに安全に出産を終えるためのチームを作っていけるかについて研究をしています。ALSO、BLSO、J-MELS、NCPRといった分娩時（出産時）に起こる母体の緊急事態や新生児蘇生のシミュレーション教育に携わっています。今後は助産師教育における効果的なシミュレーション教育について研究をしていきたいと考えています。

✉ fujihira.m@nurse.usp.ac.jp



松井 宏樹 MATSUI Hiroki

人間看護学部人間看護学科 講師

**専門分野**：老年看護学

**キーワード**：高齢者，看護，骨粗鬆症

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

骨粗鬆症は自覚症状に乏しく、治療を中断する患者様が多い疾患であることが指摘されています。治療の中断は、骨粗鬆症を進行させ、わずかな衝撃で脊椎などに骨折を引き起こします。その骨折から、日常生活に支障をきたし、高齢者の自立した生活の妨げとなることもあります。そのため、骨粗鬆症と共に生きる高齢者の生活を支えるために、看護職に求められる支援のあり方について研究を進めています。このような研究を進めることで、地域で暮らす高齢者の方が骨粗鬆症治療を継続できるきっかけとなればと考えています。また、若い世代の方にも骨粗鬆症について知ってもらえたらと考えています。

✉ matsui.hi@nurse.usp.ac.jp



渡邊 友美子 WATANABE Yumiko

人間看護学部人間看護学科 講師

**専門分野**：母性看護学，助産学

**キーワード**：育児不安，子育て支援，産後の母親サポート

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

現代子育てを取り巻く環境は、母親や子どもにとって優しいとは決して言えない状況にあります。そのため、連日のように、虐待や育児放棄などが報道されています。現代社会において、どのような支援や取組が必要であるのかを中心に、子ども・子育てに優しい社会づくりに貢献できるように努めていきたいと思っています。

✉ watanabe.yu@nurse.usp.ac.jp



國丸 周平 KUNIMARU Shuhei

人間看護学部人間看護学科 助手

**専門分野**：成人看護学領域

**キーワード**：エンドオブライフケア，意思決定支援

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

癌を患い、治療に取り組んできた方が病態や生活の変化に対応し、最期まで希望に沿った生き方を送るための支援とは何かを考えています。現在、治療方針の選択を迫られた癌患者に対する看護師の意思決定支援に焦点を当てて研究を進めています。

✉ kunimaru.s@nurse.usp.ac.jp





**専門分野**：母性看護学，助産学

**キーワード**：助産師，子育て，母子保健，地域

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

数年前までは、大学病院で勤務していた助産師です。地域のみなさんと共に学ぶ本学で、助産師・保健師・看護師の資格を得て、その経験が基盤となり地域への関心を深めてきた卒業生でもあります。現在は、母子やその家族、住民さん方の生活に近い視点からの研究をすすめています。

地域のみなさんとの活動では、母子保健や子育てに関係する共同研究、いわゆるパパママ教室におけるスタッフ活動、消防吏員に対する分娩介助技術の講師などを行っています。また、地域のみなさんが子育てをおこなう現場に関心があります。その場を訪問させていただいて、声をきくことからはじまる活動と研究を意識しています。

✉ hamano.y@nurse.usp.ac.jp

# 全学共通教育推進機構

福井 雅英 FUKUI Masahide

全学共通教育推進機構 特任教授



**専門分野：**臨床教育学，教師教育

**キーワード：**子ども理解のカンファレンス，生徒指導，教師の専門性，学校論

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

自死、いじめ、不登校、子どもの貧困など、生きづらさをかかえた子どもへの援助をどのように進めればよいか。小・中学校の現場経験を生かしながら教育現場で直面している諸問題を研究しています。

これまで「子ども理解のカンファレンス」を提唱し実践してきました。それは、一人の子どもの発達課題を多角的に検討し、その子に関わる大人の協同的な援助を創り出す実践です。学校や地域で子どもの人間的な育ちを願う方々と連携できればと思っています。

✉ fukui.m@office.usp.ac.jp



坂本 輝世 SAKAMOTO Kiyoko

全学共通教育推進機構 准教授



**専門分野：**外国語教育論

**キーワード：**大学英語教育，(WTC) Willingness to Communicate

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

近年、英語は世界の共通語の一つとして大きな役割を果たすようになってきました。私たちにとって英語は、日本語の枠を超えて情報を入手し、意思疎通をおこない、協力して仕事をしたり友人を作ったりするために、たいへん役に立つツール（道具）です。ただ、「ことば」という道具は、使い方を教われば、誰もがすぐに完璧に使えるようになるものではありません。どのようにすれば、英語を「勉強している（させられている）」人が、英語を「自分のことばの一部として使う（使うことを楽しめる）」人になれるのか、というのが私の研究テーマの一つです。英語教育を通じての地域貢献ができれば幸いです。

✉ kiyosakamoto@gmail.com





**専門分野**：外国語教育，日本語教育，eラーニング，社会言語学

**キーワード**：言語学，第二言語習得，日本語

**地域連携・産学連携・地域活動について：**

第二言語習得、外国語教育カリキュラムを専門にオンラインで行われている日本語教育について研究してきました。滋賀県立大学では交換留学生に日本語を教えています。留学生が彦根で安心して生活でき、地域の方々ともうまくコミュニケーションがとれるよう努めていきたいと思っています。

✉ shibakawa.m@office.usp.ac.jp

# 地域共生センター 学生支援センター 地域ひと・モノ・未来情報研究センター

鵜飼 修 UKAI Osamu

地域共生センター 准教授



**専門分野：**地域計画，地域活性化，まちづくり，NPO，コミュニティ・ビジネス  
**キーワード：**持続可能，地域づくり，地域ビジョン，地域診断法，健康まちづくり，コミュニティ・ビジネス，ワークショップ，まちづくり基本計画

#### 地域連携・産学連携・地域活動について：

地域資源を活かした住民主体の地域づくり活動の支援、手法の研究を行っています。

地域づくり活動の核となる「地域ビジョン」の策定、共有の手法として「地域診断法ワークショップ」を開発し、県内外各地で実践しています。地域づくり活動の実践手法である「コミュニティ・ビジネス」を自らも実践し、その実践ノウハウをお伝えしています。地域住民がビジョンを共有し、その地域ならではの資源を活かした、持続可能な地域づくり活動、地域コミュニティの創造を目指しています。これらのノウハウを教授する場として大学院「近江環人地域再生学座」、学部「近江楽土地域学副専攻」を担当しています。

✉ ukai.o@office.usp.ac.jp



上田 洋平 UEDA Yohei

地域共生センター 講師



**専門分野：**地域文化学，地域学

**キーワード：**地域再生，まちづくり，地域文化，地域資源活用，地域人材育成

#### 地域連携・産学連携・地域活動について：

イ) 地域学 (いる)：まちづくりの「そもそも」を住民自ら問い直し、地域に根差したゆるがめ暮らしを生むための「産婆役」です(地元学ワークショップ・セミナー、「ふるさと絵屏風」による地域文化継承等)。

ロ) 地域実践 (する)：自然・人・歴史といった地域の「めぐみのめぐりあわせ」による価値の創造や課題解決を支援します(中山間地域・離島振興、若者定住、地域観光振興等)。

ハ) 人材育成 (なる)：地域という「斜交場」で多様な人材が生まれ育ち、つながる場のデザイン＝「人が育つ場を育てる」活動を支援します(自治体やNPOによる人財塾/研修の企画・開発、地域おこし協力隊の活動支援等)。

✉ ueda.y@office.usp.ac.jp





**専門分野**：経営全般，起業支援

**キーワード**：経営分析，アカウントティング，金融，ビジネス・インキュベーション

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

1. 県内に雇用を生み出すための事業計画づくりと活動の評価などを行うサポートをしています。
2. 県内で創業する人の支援をしている個人や団体のネットワークを牽引し、滋賀県を最も創業しやすい地域を目指しています。
3. 大学では経営学やビジネス・プランニングなどの講座を担当しています。学生に起業家精神を養ってもらい、地域振興や活性化の担い手になってもらいたいとの思いです。

✉ nishioka.t@office.usp.ac.jp



**専門分野**：機械工学，破壊力学，信頼性工学

**キーワード**：薄板金属材料，複合材料，セラミックス，薄膜，疲労

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

キャリア教育および学生の就職活動の支援を担当しています。学生にとって、大学は学びの場ですが、卒業後の進路を考え、決める場でもあります。キャリア教育では、学生が卒業後のキャリア（働き方、日常生活の過ごし方）を考え、大学生活でなすべきことを広い視野で考え、実行することにより、自分に合った進路が見つかるようになることを目標としています。就活支援では、学生ができるだけ希望する就職先に内定するように、エントリーシートのチェック、面接の練習などを行っています。さらに、滋賀県の優良企業をできるだけ多く紹介して、企業選びの視野が広がるように指導を行っています。

✉ takamatsu.t@office.usp.ac.jp



**専門分野**：偏微分方程式論

**キーワード**：偏微分方程式論，調和解析，実関数論

**地域連携・産学連携・地域活動について**：

熱、微生物、半導体中の電子の動き（拡散現象）、気体や弾性体内を伝わる密度波、道路を行き交う車両の粗密（波動現象）などの様々な物理現象を偏微分方程式を使って記述することができます。コンピュータの発展に伴って、数値計算で近似解を計算することは容易になってきていますが、近似やモデルの正当化はもちろん、近似の精度が落ちてしまうような無限個の情報や特異点を含むような計算には、数学が必要不可欠となります。微積分、幾何学、確率論などを用いて、このような偏微分方程式の研究を行っており、数学の様々な魅力を伝えられればと考えています。

✉ sugiyama.y@e.usp.ac.jp

## 滋賀県立大学地域連携ガイドブック

---

令和3年3月

発行 滋賀県立大学 地域共生センター  
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500  
TEL: 0749-28-9851  
FAX: 0749-28-0220

※令和3年1月時点の教員情報を掲載しております